

Contents



基本のレッスン

4

Part 1 ジオメトリックで遊ぶ



球を着る

09.....23
22



円を着る

10.....24
11.....26



三角を着る

12.....28



四角を着る

30



後ろにニヨキッ

14.....33
32



前にニヨキッ

15.....37
34.....36



ストールみたいに

16.....38



球のジャバラ

17.....41
40



円のジャバラ

18.....43
42



サークルスリーブ

19.....45



四角のジャバラ

20.....46

Part 2 デコレーションの仕組み



ノット

49.....60
58



ジャングル

50.....64



スター

51.....66



クイックターン

52.....70
68



見返し・しだい

53.....75
73



カウルネック

54.....76



カウルネックの応用

55.....78
56.....79

Part 3 消える……



消えるスカーフ

81.....86



消えるネクタイ

82.....88



消えるラベル

83.....90



消えるポケット

84.....92
94



この本の使い方

95



文化式原型成人女子用の作図のしかた

96



文化式原型 成人女子用Mサイズ(1/2)

98

基本になっているボディは文化式原型成人女子用を使用。詳しくは96ページを参照。

また、作図はすべてMサイズ(バスト83cm、ウエスト64cm、背丈50cm)。

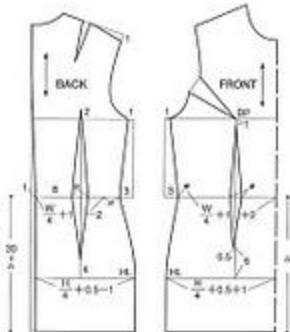
実際き緒の位置や分量などはサイズの大小によって異なります。

½のボディを使うときは、白図上の実物大ボディのための寸法を½にしてパターン適用する。

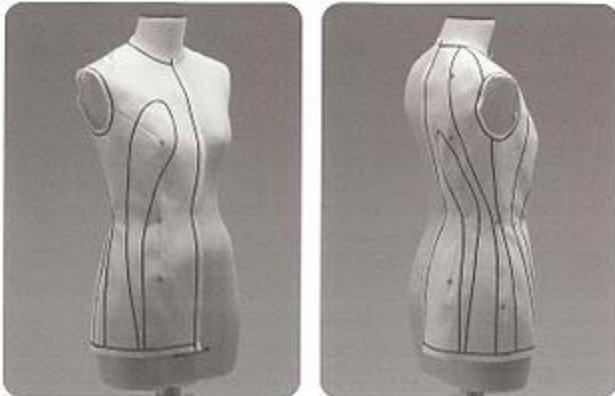
基本のレッスン

切替え縫だけで立体を作る

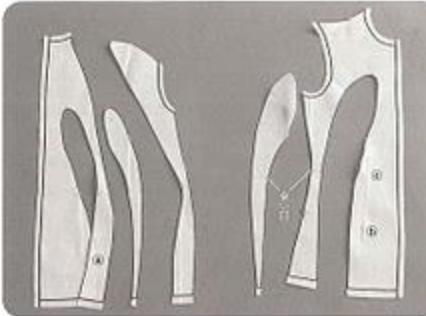
パターン作りのベースになっている文化式原型は、ダーツ（胸ぐせダーツ、後ろ肩ダーツ、ウエストダーツ）によってボディにフィットさせている。まず、ベーシックなミルソーのパターンに、ダーツではなく自由に入れた切替えのラインで立体を表現してみたい。



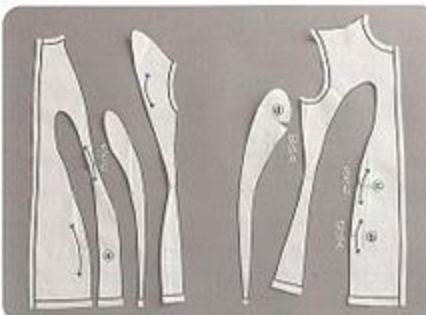
① トランゾーの作図をする。



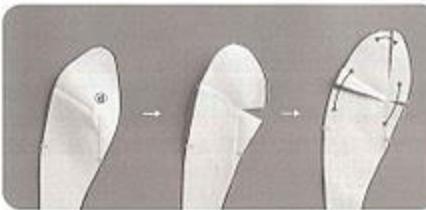
② ボディを縫い上げ、ダーツ止り、ウエストラインに●印をつける。
●の位置に間違なく自由にラインを入れる。縫い合わせるときに、合い目も入れておく。



④ ラインどおりに切ると裁ちに平面にならず、⑤のように変形するところができる。



⑤ はたたむことで縫い代分を出した。それはか平原にならないところは直のようだ。ダーツ止めに向かっては込みを入れれる。⑥のようになってはいるところは、たたむなどして平らにした。縫合せでは、たさんだところは伸ばし、切り込みを入れたところはいせるがつです。



⑥ 切込みを入れたが切開き分が多いので、3か所に切り込みを入れてそれを分散することにした。

④を抜振する



(1)もの上に省パターンを置き、裁い紙をつけて抜振する。



(2)裁い紙も差れずに入れる。



(3)切り開いたところは糊ミシンをかけて裁い始め、アイロンでいせ込む。



(4)ダーツがなくても、胸にフィットする。



⑤裁い上げて完成

切替え縫が△から離れていくほど、くせとりが必要になる。離れすぎている場合は、糸村にもよるが、くせとりだけでは無理なので、襟替え縫を複数などのデザイン変更が必要になることもある。

さらに応用として、裾にフレアを入れてみた



① ②のパターンを使い、フレアを入れたい直角にラインを入れる。



② フレア分を切り替く。前身頃は腰にフレア分をしたい。後ろ身頃は腰なってしまい、下段のパターンとしては成り立たない。腰より分が多いので、上部をたくさんでも裁い代分を出すことはできないので、切り替えて2枚のパターンに分けたことにした。



切り替えた之後のパターン。



⑥ 裁い上げて完成

切替え縫の入れ方により、パターン作りにさまざまなハブニングが起きてくる。そのつど柔軟な考え方で、完成への方法を探してほしい。

PATTERN MAGIC

Part 1

ジオメトリックで遊ぶ

数学で、図形の勉強をしているときから

“円”が好きだった。

どんな形より、穏やかで安心できるから。

まず、円から始めて三角、四角……と。

服のパターンにしてみた。

体を入れると余ってぐる。本末なら必要な部分が

フレアやドレープになるおもしろさにはまつた。

さらにオブジェのようなフォルムの服。

ディテールにも取り入れてみた。

ジオメトリックな図形は、形の美しさの原点。

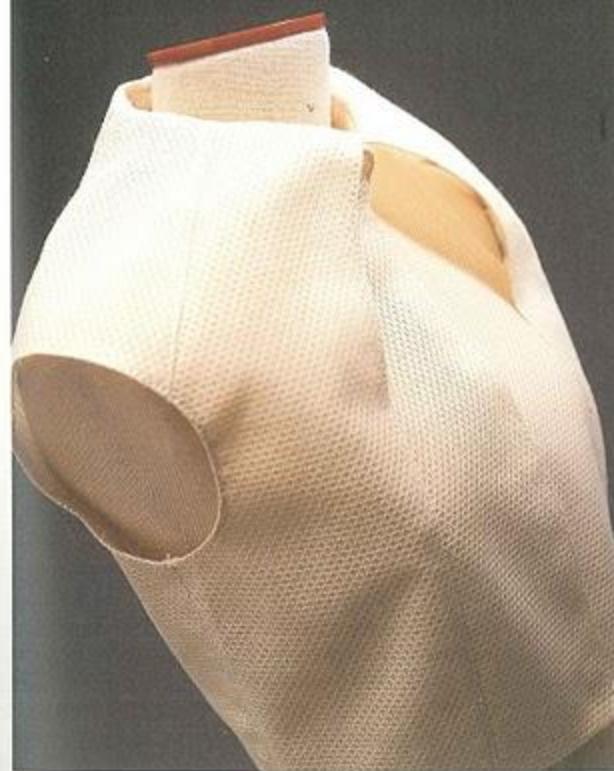
さまざまな方法で再構築して、

パターンで遊んでみたい。



球を着る

解説23ページ



円を着る 頁24ページ



10
PATTERN MAGIC

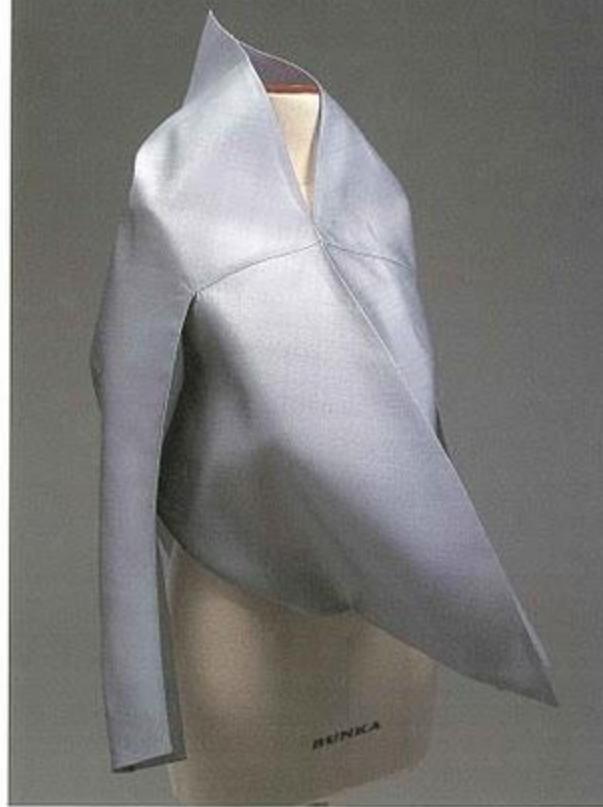
円を着る 頁25ページ



11
PATTERN MAGIC

三角を着る

斜見28ページ



12
PATTERN MAGIC

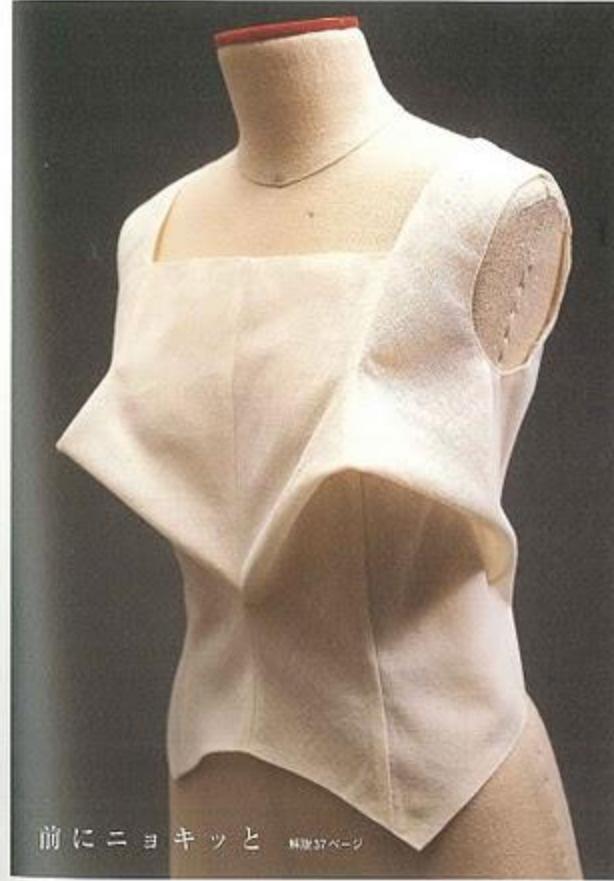


13
PATTERN MAGIC

後ろにニヨキッと 解説33ページ



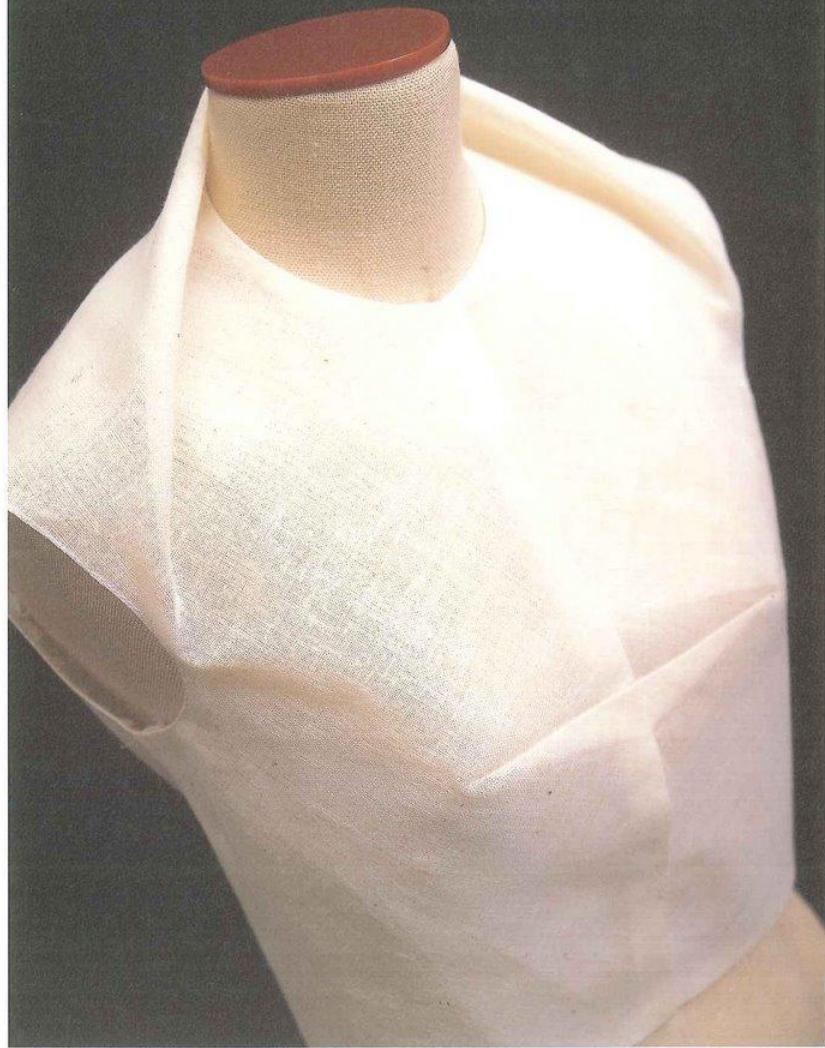
54
PATTERN MAGIC



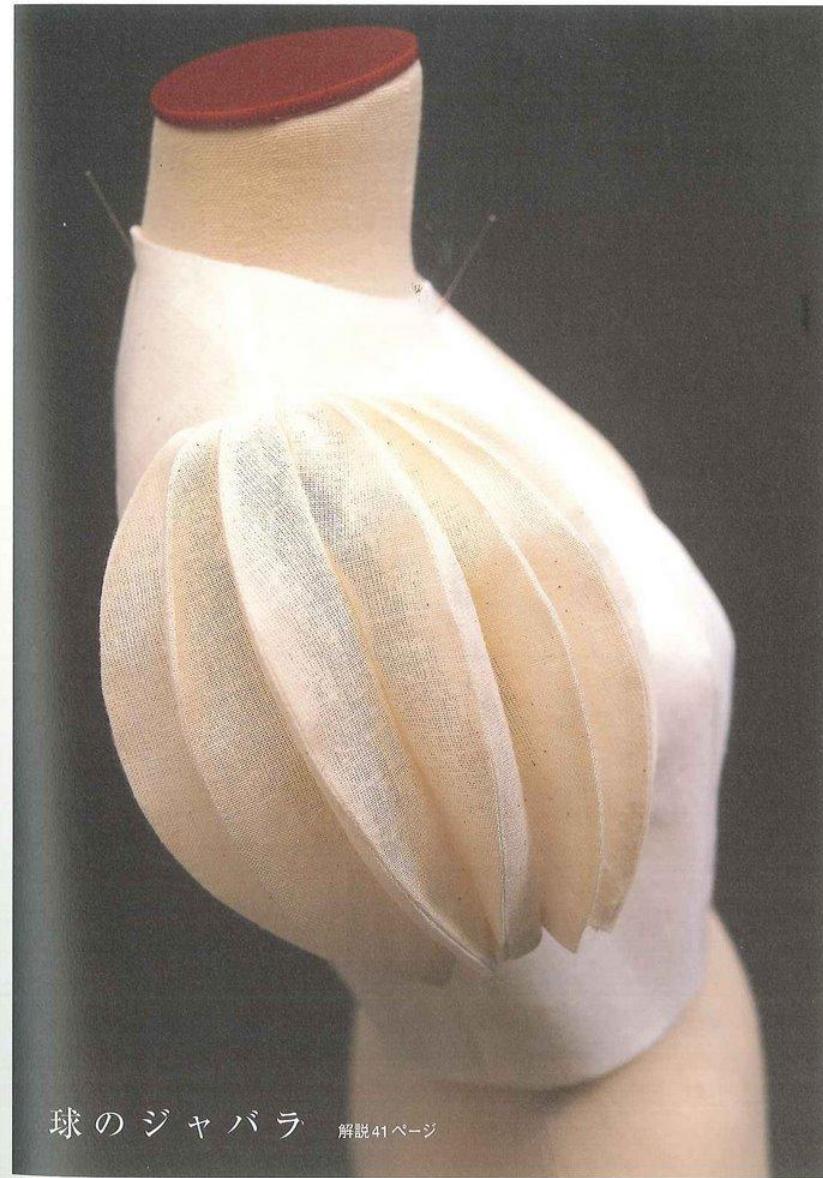
前にニヨキッと 解説37ページ

55
PATTERN MAGIC

ストールみたいに 解説38ページ

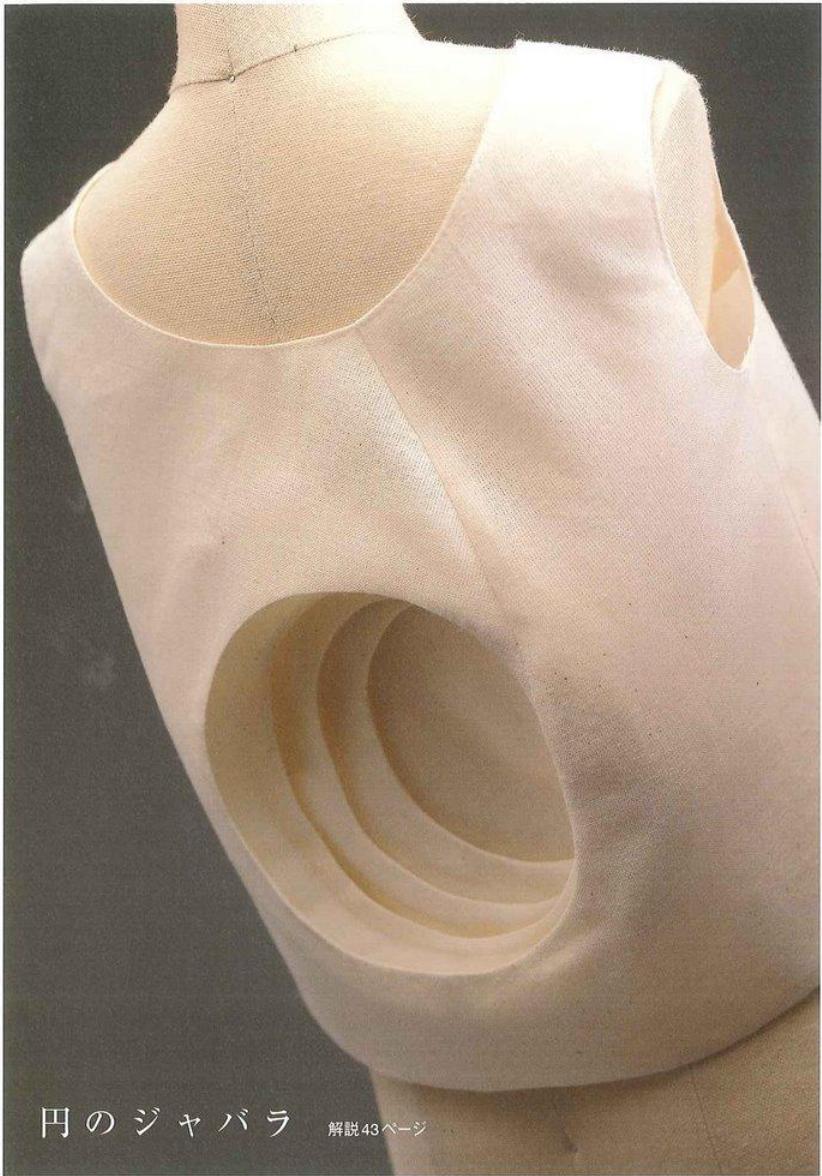


16
PATTERN MAGIC



球のジャバラ 解説41ページ

17
PATTERN MAGIC



円のジャバラ 解説43ページ

18
PATTERN MAGIC

サークルスリーブ 解説45ページ



19
PATTERN MAGIC



20
PATTERN MAGIC

PATTERN MAGIC

“ジオメトリックで遊ぶ”的
パターンを作る

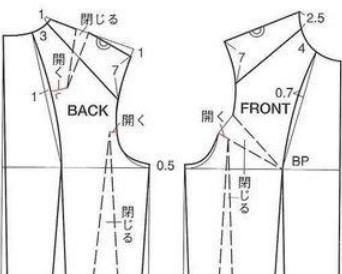
21
PATTERN MAGIC

球を着る

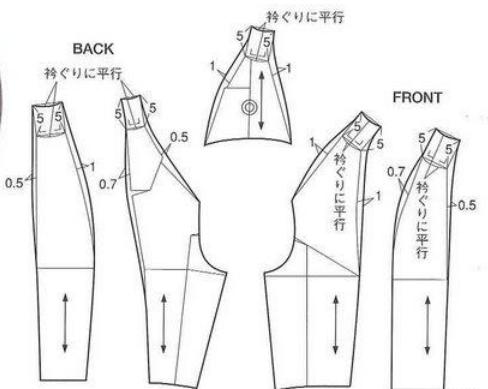
空にふわふわと浮かぶ気球の写真を見ていて思いついた服。

体から浮かせたフォルムは、立体裁断で表現するのは難しい。

原型に入れた切替え線をふくらませて、服として美しい球体を探ってみた。

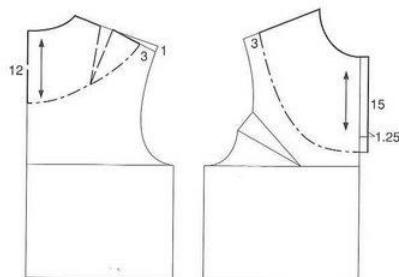


① 原型にバランスよく切替え線を入れる。



② ダーツはすべてたたむ。

- ・衿ぐり線より高い位置からふくらませるので、衿ぐりを5cm高くし、元の衿ぐり線を写した。
- ・横のふくらみ分は0.5~1cmずつ追加し、つながりよく線をかく。
- ・前中心線がカーブなので、持出しがバイアスである。
- ・ふくらみ分を追加してできた切替え線の縫合せで長さが合わない場合は、いせや伸しで合わせる。差が大きい場合は、衿ぐりで逃がす。

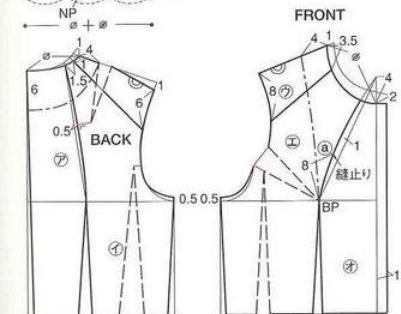
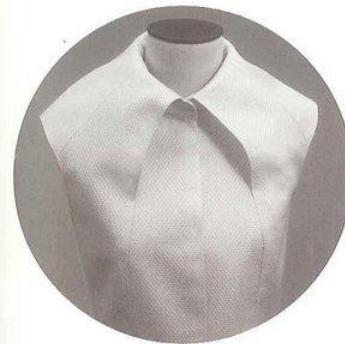


③ 見返しは、肩周辺が浮きやすいので幅広くとる。

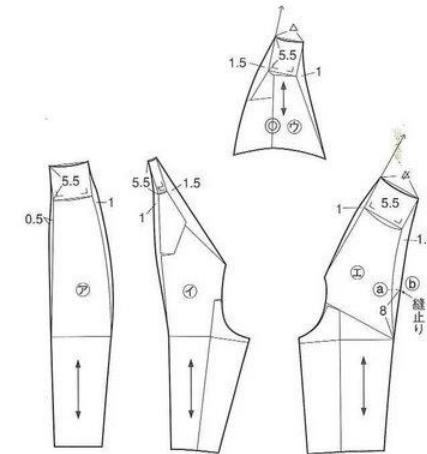
9ページ“球を着る”

スタンドカラーについた大きな衿がふわっとふくらんで、

ボディに溶け込んだよう。



① 原型にバランスよく切替え線を入れる。②の前中心側の切替え線は、台衿幅分の上端にぶつかるように延長し、BPを通りつながりよく結ぶ。4cm幅のスタンドカラー（見返しも兼ねる）をかく。



② ダーツはすべてたたむ。

- ・衿ぐり線より高い位置をふくらみ始めとするので、②③④⑤それぞれの衿ぐりを5.5cm高くし、元の衿ぐりの線を写した。
- ・横のふくらみ分は0.5~1cmずつ追加し、つながりよく線を訂正する。



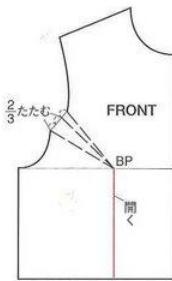
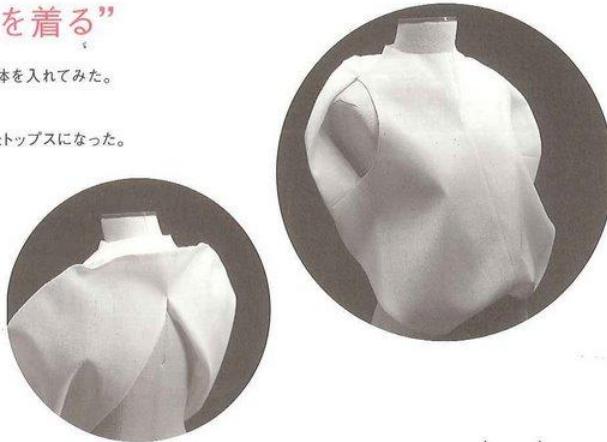
③ 見返しの作図をする。④は前身頃と見返しを兼ねる。最後に④⑤を合わせて縫止りまで縫う。

10ページ“円を着る”

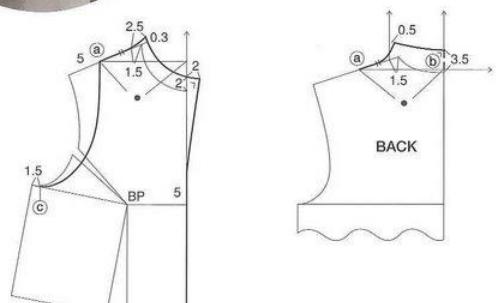
円形の布を2枚合わせ、間に体を入れてみた。

体を優しく包み込むように、

ラウンドのラインが生かされたトップスになった。

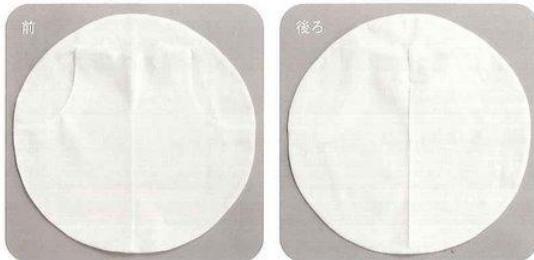


① 原型のアームホールダーツの $\frac{2}{3}$ をたたむ。

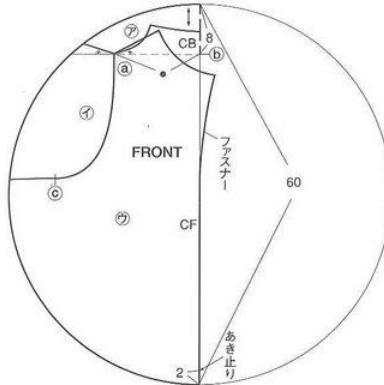


② 着ぐるりにハイネックラインをかく。前の衿ぐりが不足するので、前中心で追加した。肩幅を決め、④とする。

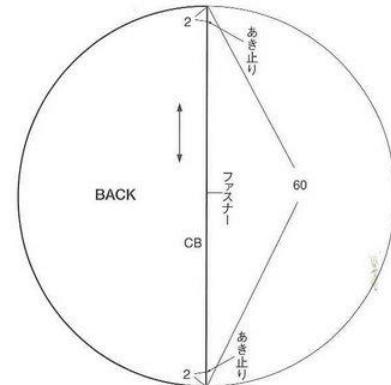
③ 後ろも前と同様、衿ぐりをハイネックにし、前肩幅と同じ長さの④をとる。④から水平に後ろ中心にぶつかる位置を⑤とする。



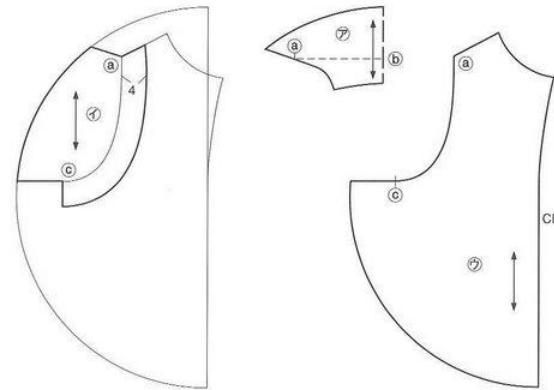
たたんだ状態



① 半径30cmの円をかく。中心線から8cm入り、そこから水平に④寸法をとったところを④とする。④を合わせて前身頸、後ろ身頸を写し取り、④～⑥から円周に向かって切替えのラインをかく。ラインは自由でいいが、今回は⑥から水平に入れた。もう一本は④を水平に通る線に對して、前肩線と対称に同角度をとり、切替えのラインを入れた。



② 後ろ身頸は半円を2枚合わせたパターンになる。後ろ中心にはファスナーあきにした。



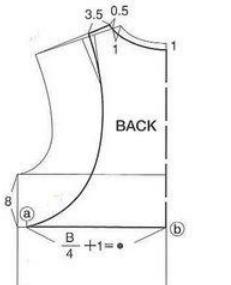
③ 前身頸のパターンは三つのパートから成り立つ。⑦は④～⑥の線で、上図のように反転して写す。④は前身頸の袖ぐりに隠れている部分が必要になるので、4cm幅で袖ぐりに平行に追加する。

11ページ“円を着る”

円から垂直に体を出したところが、円錐のよう。

裾の、あきの位置や大きさで、

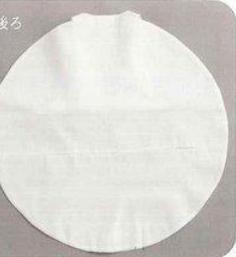
また、布地の重みによって変わるフォルムが楽しい。



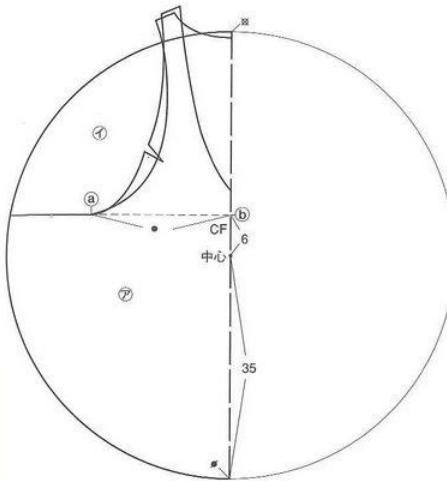
① 円から体を出したい位置を決め、そこに身幅をとり、④～⑥とする。

② アームホールダーツをたたみ、切り開く。

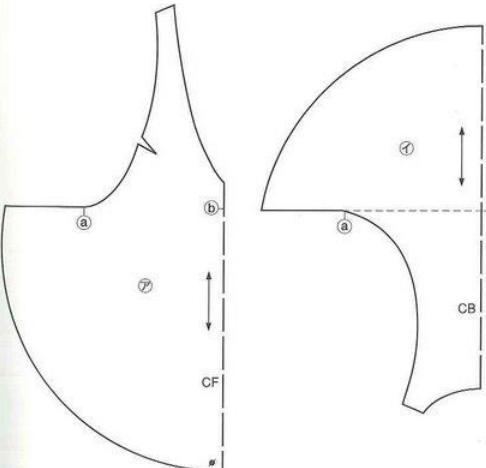
③ 後ろ身頃と同様に、前身頃にも同寸の身幅をとる。



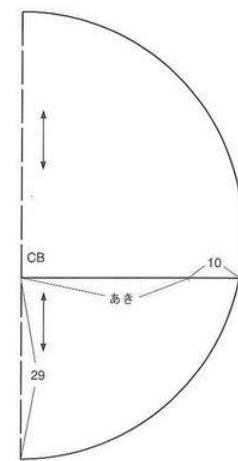
たたんだ状態



① 半径35cmの円をかき、体を出したい位置を前中心上に決め、④とする。
⑤から水平線上に●寸法をとったところが④となる。④～⑥を合わせて前身頃を写す。



④ パターンは前身頃⑦と後ろ身頃⑧でできている。⑧のパターンは④～⑥の線で反転して写す。



⑤ 裏側になる円は着用してから、あきをスナップなどで調節する。

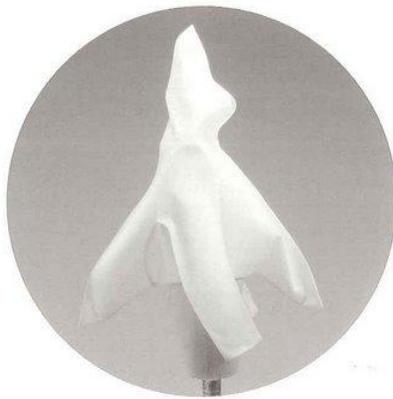
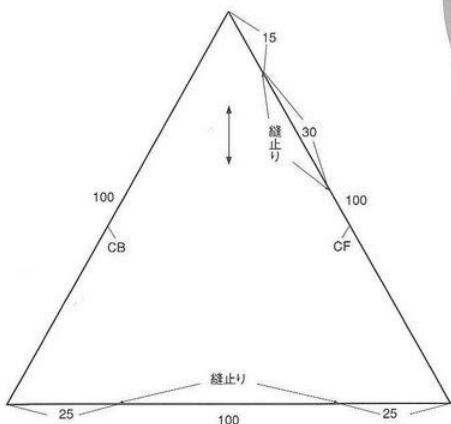
12ページ“三角を着る”

オブジェのようなフォルムの服に体を入れてみる。

ジオメトリックな立体に

“着る”ことで表われる新鮮な表情が楽しくて、

さまざまな形で試してみた。三角はとびきりシャープに。



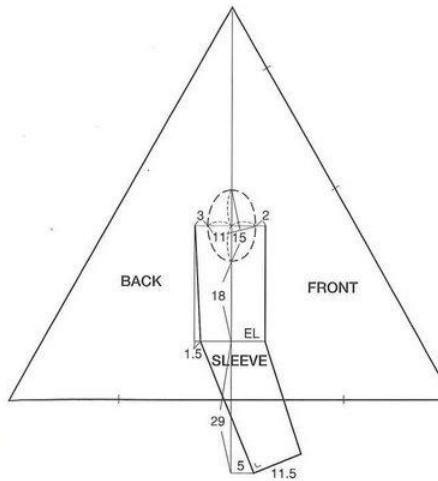
① 体に入る大きさの三角形を2枚裁つ。ここでは、1辺が100cmの正三角形にし、頭と裾にあきを作った。あとは、ファスナー(両あき)にしておもしろい表情になる。出来上がってから調節するといい。



② 縫い合わせた三角形の布をボディに着せる。



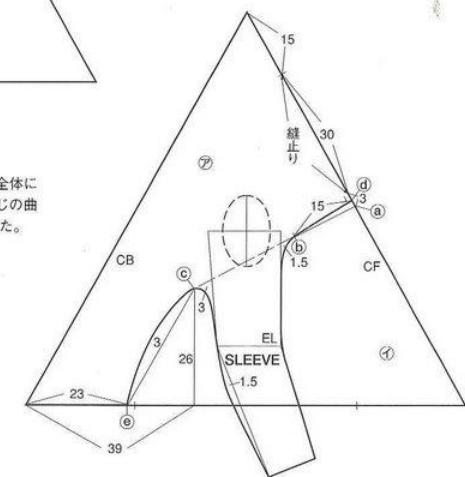
③ アームホールの位置を布にしるす。



④ アームホールの位置を基準にして、袖の作図をする。全体に大きなフォルムなので、バランスを考えて袖丈も長く、ひじの曲がる角度も大きくしてオブジェとしてのおもしろさを追求した。



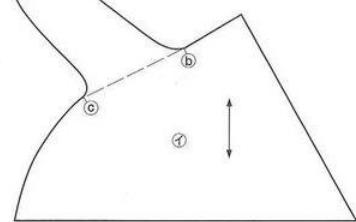
たたんだ状態



⑤ 身頃から袖に続く切替えのラインをパターンに入れる。位置はバランスを見て決めていいが、⑥～⑨を結ぶラインは腕つけ根を通るので、上すぎるとつかえてしまうので注意。

- 1 ④⑤を結ぶ。
- 2 ⑥⑦⑧を通じて直角に、前中心に⑨をとる。
- 3 ⑩⑪を通って前袖のラインをかく。
- 4 ⑫⑬を通って後ろ袖のラインをかく。

パターンは⑦と⑨の二つのパターンでできている。⑨のパターンは⑩⑪の線で袖をおこすように反転して写す。



四角を着る

正方形の布をほとんど余すところなく、

最小限の用尺と縫製で仕上げたブルオーバー。

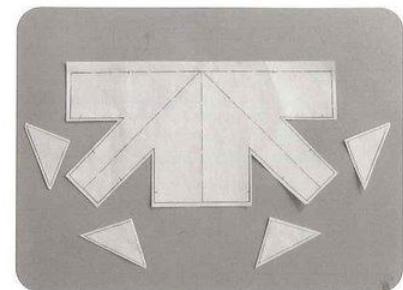
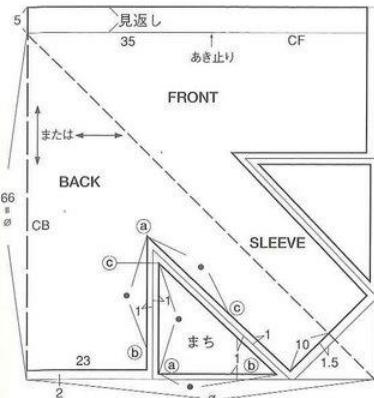
家庭洋裁があまりもえだった時代に母が教えてくれた、

まっすぐ縫うだけのカバー率の高い服……

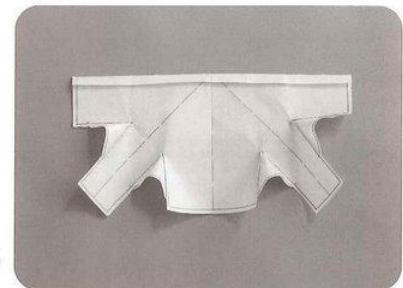
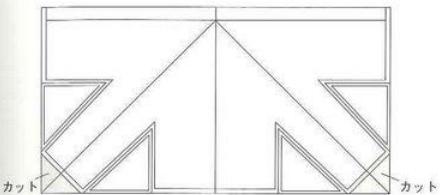
そんなことを彷彿とさせるシンプルなデザインは、伸縮素材で作りたい。



30
PATTERN MAGIC

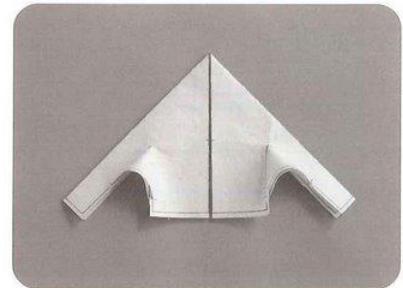
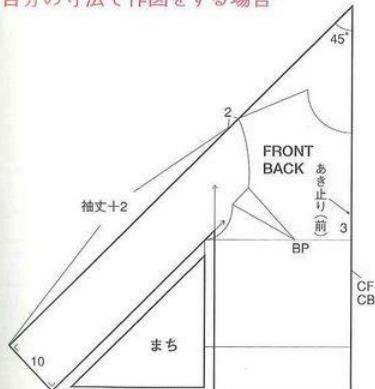


① 裁断図



② 見返しを折り、まちをつける。

自分の寸法で作図をする場合



③ 前中心の裾からあき止りまでを縫う。袖下、まち、脇を縫い袖口、裾を上げる。前中心全体にファスナーをつけて、あきを自由にしてもいい。

前中心線から、45°の角度でとった肩、袖山線を引き、そこに前原型をえ、身幅のゆとりや着丈、袖丈などを決めていく。

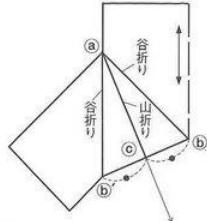
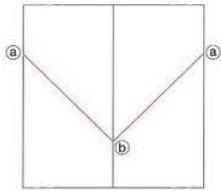
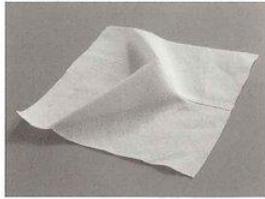
31
PATTERN MAGIC

ニヨキッと

フィットしたボディから布が突き出した、ニヨキッと！ 大波小波のように、波の角度は自由自在に。不思議だが服にデザインされると、ドレープよりもモダンで、同じくらいエレガントなディテールだ。

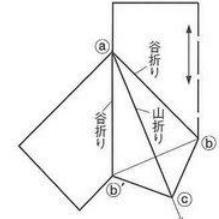
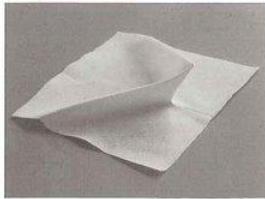
平らな布からニヨキッと

A



① ニヨキッと出したい位置を決める (④～⑤～④')。

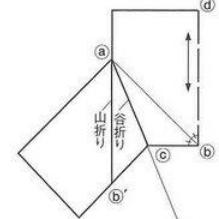
B



② シンメトリーなので、半分のパターンとする。突出させたい高さ(④～⑥～④')の2倍を④を基点にして開き、⑤とし、④と④'を直線で結ぶ。④～⑥～④'間が90°になる。

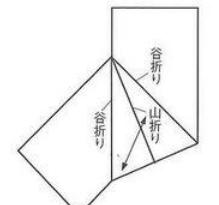
写真のように④を鋭角に突出させるためには、山折り線上で④～④'を結んだ線より延長したところに⑥を求めればいい。

C



写真のように平らにするには、④が直角になるまで④を④'に近づける。④の位置を動かすことによっていろいろな表情が見えてくる。

D



基本Aと同じ90°に突出させるパターンだが、布目を山折りでバイアスにすると、カーブした柔らかな表情になる。

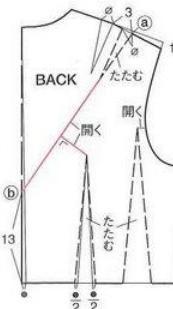
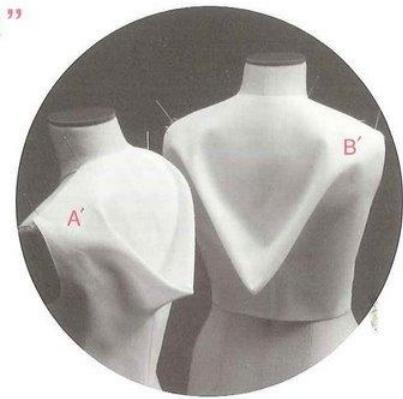
14ページ“後ろにニヨキッと”

後ろ身頃にニヨキッと突出させてみた。

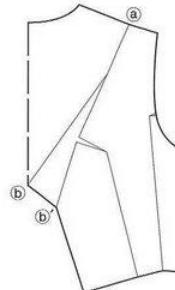
体にフィットさせたボディの

バックスタイルから突き出した布。

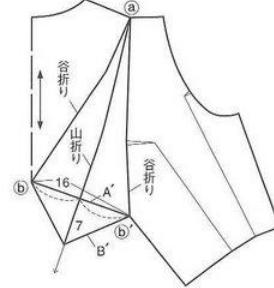
まるで鳥のくちばしのように。



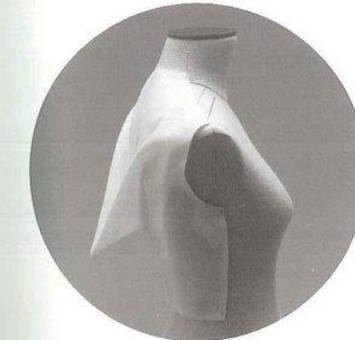
① ニヨキッと出したい位置を決める (④～⑤～④')。肩ダーツを④～④'線上に移動する。



② 肩ダーツをたたんで切り開き、④'とする。



③ 高さが不足なので、④を基点にしてさらに開いた。ウエストダーツをたたんだため、④～④'より④～④'が長くなるが、少しなので外回りのゆとりとする。山折り線の決め方により、A'、B'のニヨキッとになる。



前にニヨキッと

解説36ページ

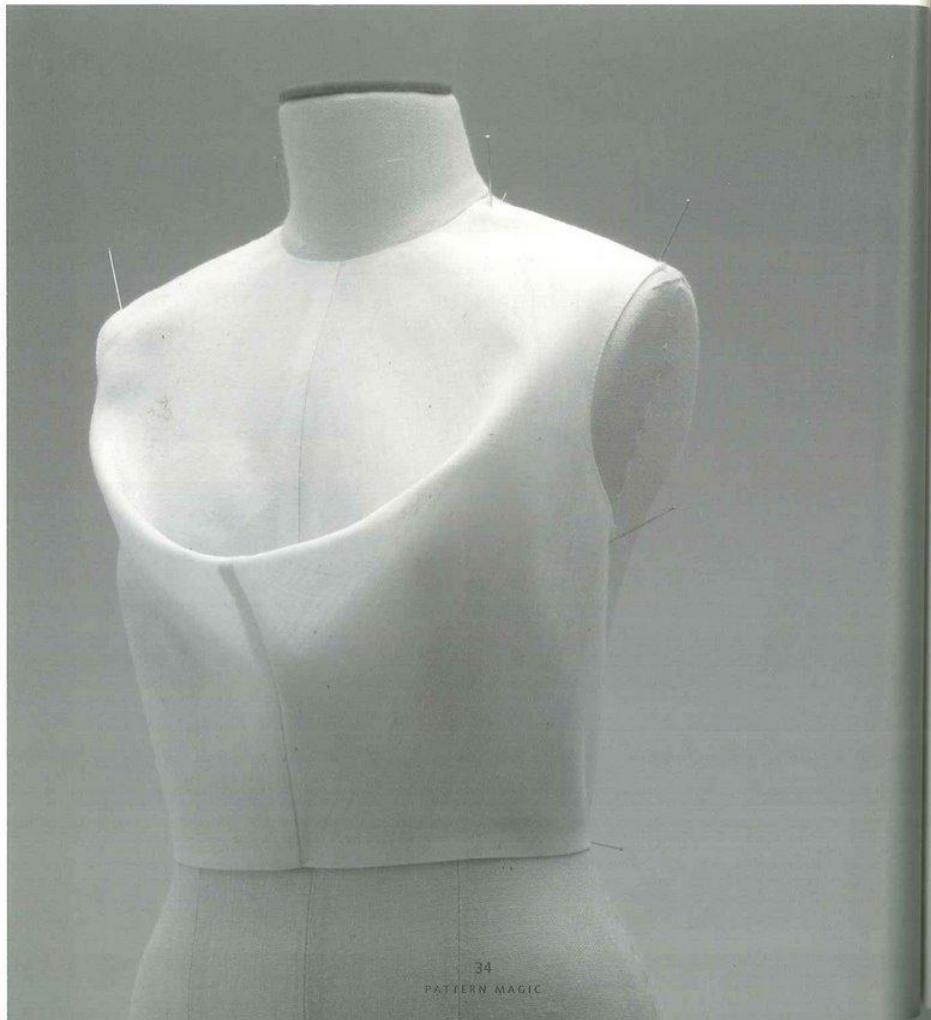
ソフトなのに力強い布の流れ。

前身頃からニヨキッと、持ち上がった。

胸もとに現われた、斬新なアクセサリーのようだ。

角度も思うまま、自由自在に、

いくつかを組み合わせれば、さらに繊細な表情になる。



34

PATTERN MAGIC



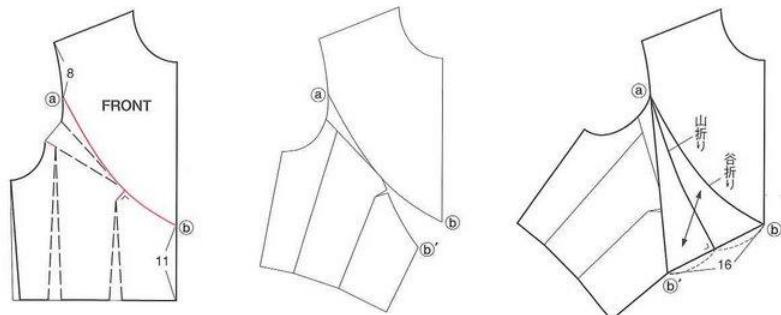
35

PATTERN MAGIC

34ページ“前にニヨキッ”

直角に突出させた“ニヨキッ”を前身頃に。

布目をバイアスにすることで、優雅に布が流れている。



① ニヨキッと出したい位置を決める
(a)～(b)。

② ダーツをすべてたたんだが、高さ
(b)～(b')が足りない。

③ 高さの不足分を(a)を基点にさらに開く(こ
こでは16cm)。

布目を山折り線にバイアスに通す。

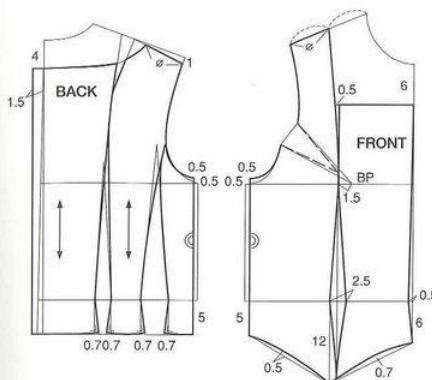
15ページ“前にニヨキッ”

ブラウスの2枚重ね?

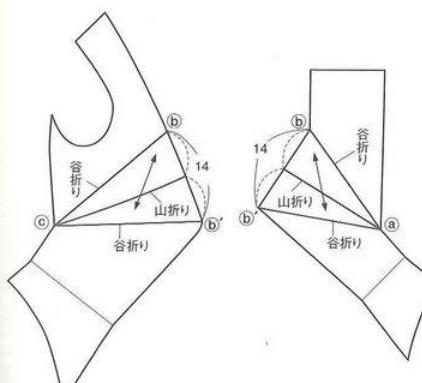
レイアード風“ニヨキッ”。

切替え線の位置、山折り線の長さにより、

自由に布を突出できる。



① ベースになるブラウスの作図をする。

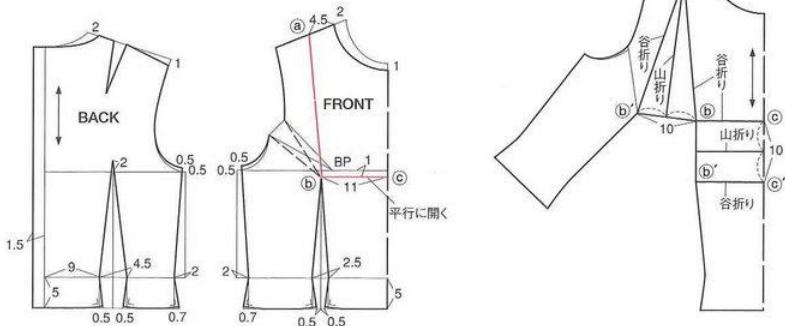


② 前身頃と後ろ身頃の脇を突き合わせ、アームホールダーツをたたむ。ニヨキッと出したい位置、(a)～(b)～
(c)をかく。

35ページ“前にニヨキッ”

肩からと、胸もとからの“ニヨキッ”を

ネックレスのようにつなげてみた。個性的なアクセントだ。

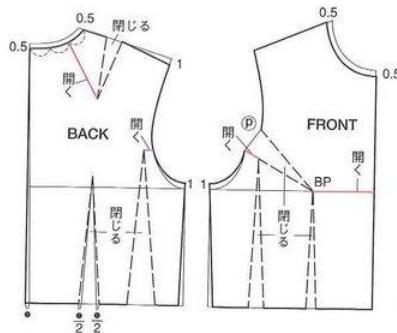


① ウエストラインから丈を少し長くしたトップス。前身頃に(a)～(b)～
(c)の切開き線を入れる。アームホールダーツを(b)まで移動する。

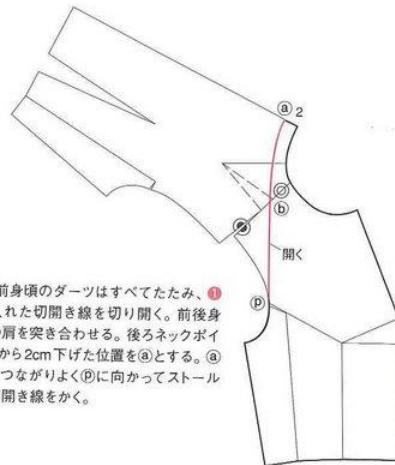
② アームホールダーツをたたむ。(b)～(c)を平行に開き(こ
こでは10cm)(b')～(b'')とする。(a)～(b)も切り開き(ここでは
10cm)、(a)～(b')とする。

16ページ“ストールみたいに”

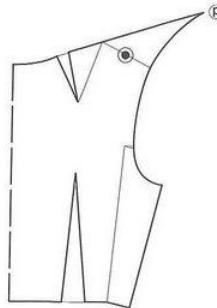
ストールをかけたように見えるのは、肩に添うようにニヨキッと出た身頃からつながった1枚の布。切開き線のかき方で、ストールの表情が変わってくる。



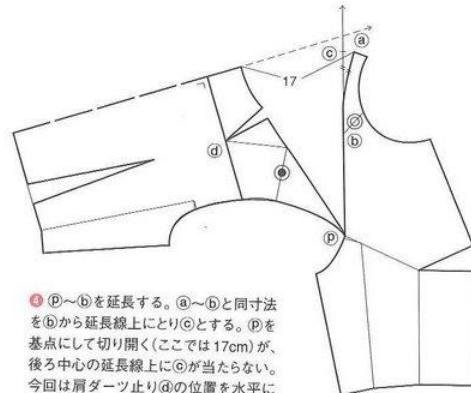
① 作図をする。衿こしがつかえるので原型から衿ぐりをカットする。前身頃は、バストポイントから水平に前中心に向かって切開き線を入れる。



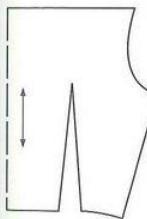
② 前身頃のダーツはすべてたたみ、①で入れた切開き線を切り開く。前後身頃の肩を突き合わせる。後ろネックポイントから2cm下がった位置を④とする。④からつながりよく③に向かってストールの切開き線をかく。



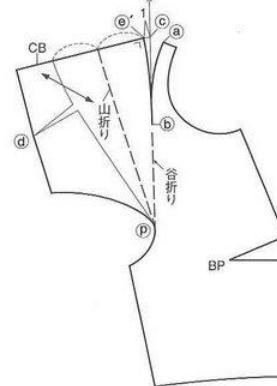
③ 肩ダーツは衿ぐりに移動する。残っている前後の肩を合わせる。



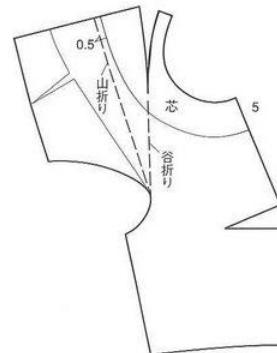
④ ④～⑥を延長する。④～⑥と同寸法を⑥から延長線上にとり⑦とする。⑧を基点にして切り開く(ここでは17cm)が、後ろ中心の延長線上に⑦が当たらない。今回は肩ダーツ止り④の位置を水平に切替え線を入れる。



⑤ 後ろ身頃下側のパターン。



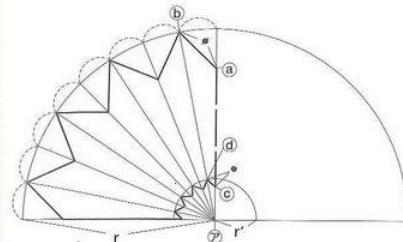
⑥ 後ろ中心の延長線が⑦に交わるまで④を基点に肩ダーツを閉じる。⑦から後ろ中心の延長線上の1cm下がった位置を⑧とする。④～⑦～⑧はダーツとして縫う。



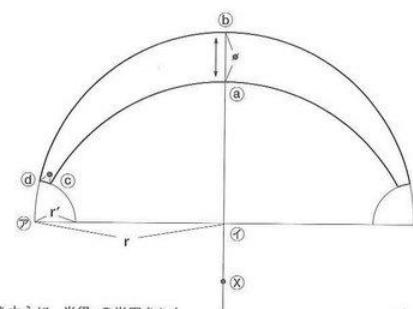
⑦ 着用時、衿ぐりの落着きが悪い場合は、衿ぐりの伸止めを兼ねて、芯をはったり、谷折りに途中までコバスチックをかける。

球のジャバラを作る

子どものころ、紙をたたんで開いて遊んだ、あの楽しさが忘れられない。
三日月形を交互に折りながら、何枚もつなげたら球になる。
シャープな陰影の半球は、繊細なディテールの袖になった。

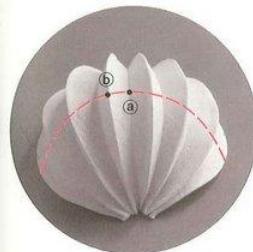


- ① (b)を中心に、半径 r の半円をかく。
- ② (a)を中心に、半径 r' の半円をかく。
- ③ ジャバラを入れる折り目の本数で半円周を割る。
- ④ ジャバラの凹凸の幅を決め、ギザギザにかくと断面図が完成する。
- ⑤ (a)～(b)=■ (c)～(d)=●



- ⑤ (b)を中心に、半径 r の半円をかく。
- ⑥ (a)を中心に、半径 r' の半円をかく。
- ⑦ (b)を直上して、外周とぶつかる点を(b)とする。
- ⑧ (b)から外周側のジャバラの幅■をとり、⑨とする。
- ⑨ 半径 r と r' の内の交点を⑩とする。
- ⑩ ⑩から半径 r' の円周上に、中心側のジャバラの幅をとり、⑪とする。
- ⑪ ⑪から半径 r の円周上に、中心側のジャバラの幅をとり、⑫とする。
- ⑫ ⑫から弧をかき三日月形にする。この三日月形がジャバラのパターンとなる。
- 折り目の数、パターンが必要になる。

広げた図



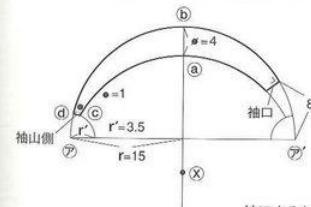
たたんだ図



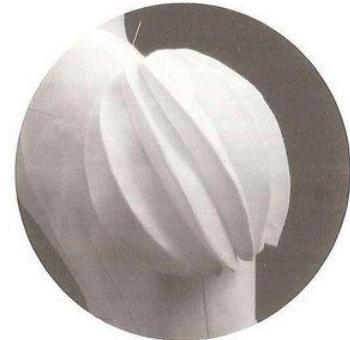
斜めに引っ張った図



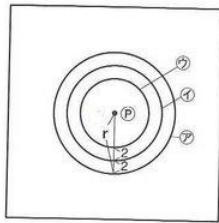
17ページ“球のジャバラ”



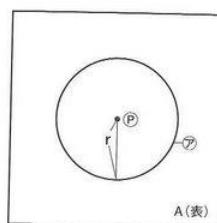
袖にするための標準的な寸法を示した。
②から8cm上がったところから直角をとり、袖口とした。袖は三日月形のパターン16枚で構成。袖を落ち着く位置にセットする。



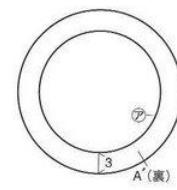
円のジャバラを作る



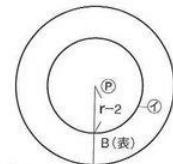
① Pを中心とした半径rの円を①とする。
Pを中心とした半径r-2cmの円を②とする。
Pを中心とした半径r-4cmの円を③とする。



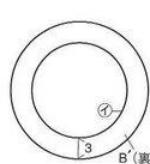
② 土台Aに半径rの円①をあける。



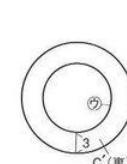
③ Aの裏側にかける3cm幅のドーナツ形の円をA'とする。裏側につくのでパターンは裏が出る。



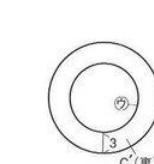
④ 円①とA'の外周でできたドーナツ形の円をBとする。



⑤ Bの裏側にかける3cm幅のドーナツ形の円をB'とする。裏側につくのでパターンは裏が出る。



⑥ 円②とB'の外周でできたドーナツ形の円をCとする。

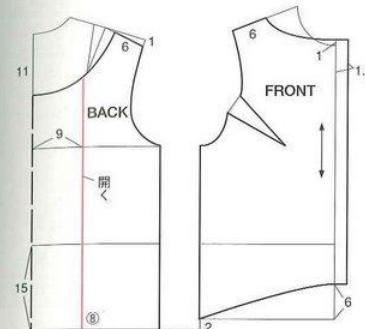


⑦ Cの裏側にかける3cm幅のドーナツ形の円をC'とする。裏側につくのでパターンは裏が出る。

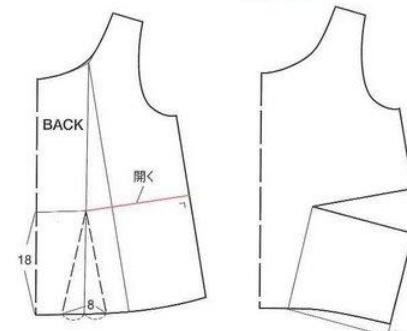
⑧ AとA'が縫われ、A'とBが外周で縫われている。同じ繰返しでBとB'、CとC'がジャバラに縫われ、構成されている。

18ページ“円のジャバラ”

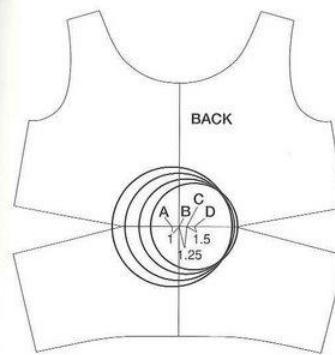
円が少しずつ小さくなって、だんだんずれて……
奥のほうへ行くにしたがい、トンネルのように消えていく。
くびれた後ろのウエスト付近のジャバラのトンネルは神秘的で、
一瞬、体に穴があいてしまったように感じる。



① 土台になる身頃の作図をする。後ろ身頃は体から離すため、切り開いてゆとりを出した。後にデザインポイントとなるジャバラがあり、重みが出るので前の衿ぐりを中心上げた。



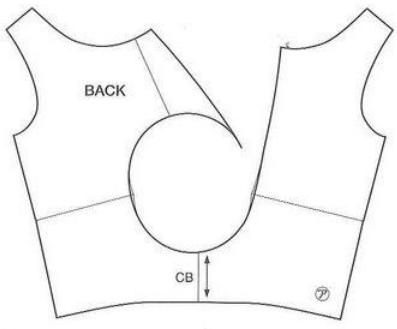
② 捩でダーツのようにたたむことにより、ふくらんだシルエットを作る。



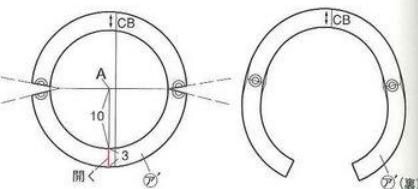
③ 左右のダーツ止りを結び、A～Dを中心とした円をかく。中心を移動させることで円が右に動く効果を出す。Aを中心に半径10cmの円をかく。Bを中心に半径9cmの円をかく。Cを中心に半径8cmの円をかく。Dを中心に半径7cmの円をかく。それぞれの円が胸ぐせダーツにかかることにより、ジャバラが立体的になる。



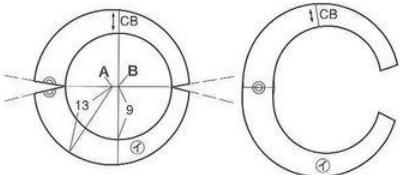
④ Aを中心に半径10cmの円をかく。ダーツはたたみ、衿ぐりで切り開く。



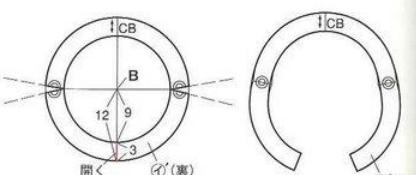
⑥ 円のラインを訂正する。後ろ身頃を⑦とする。



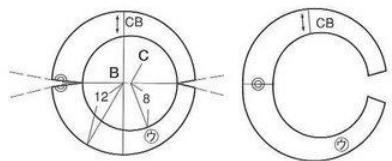
⑦ ⑦の裏側に見返しのように、ジャバラを作る。Aを中心にして3cm幅の奥行きをつけて、半径13cmの円をかぎ⑦とする。⑦のダーツを突き合わせて円の底で切り開き、縫い目とする。円のラインをつなぎよく訂正する。⑦は裏側につくのでパターンは裏が出る。



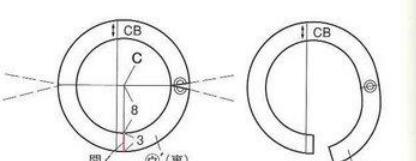
⑧ Bを中心に半径9cmの円をかく。⑦とつなげるため、⑦の外円と同じ大きさの円をかく(半径13cmの円)。縫い目を目立たせなくするため、はぎ目は脇にとった。ダーツを突き合わせてラインの訂正をする。



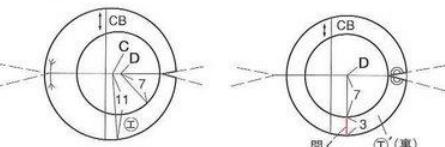
⑨ Bを中心に半径12cmの円をかく。そのうち3cmはジャバラの奥行き幅である。⑦と同様に⑦のパターンができる。



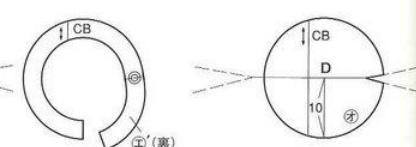
⑩ ①と同じようにして⑦のパターンを作る。



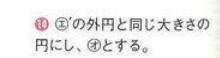
⑪ ①と同じようにして⑦のパターンを作る。



⑫ ⑪と同じようにして⑦のパターンを作る。



⑬ ⑪と同じようにして⑦のパターンを作る。



⑭ ⑭の外円と同じ大きさの円にし、⑦とする。

● 縫い方は⑦と⑦、⑦と⑦、⑦と⑦、⑦と⑦を中表にして内側の円どうしを縫い、表に返す。次に⑦と⑦、⑦と⑦、⑦と⑦、⑦と⑦の外円を縫う。

19ページ“サークルスリーブ”

大、中、小の円で構成された立体は、

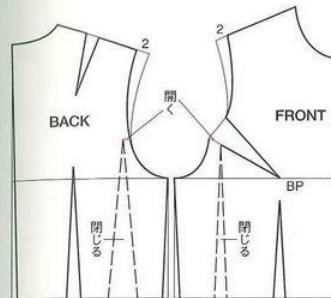
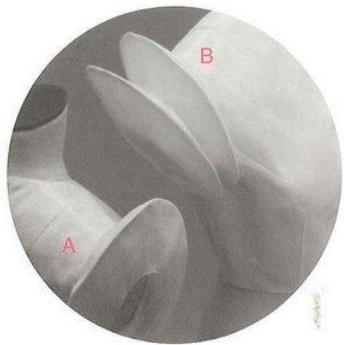
水平に置くと、平たくなってしまう。

これもジャバラの一種だ。

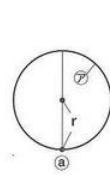
ジャバラ一つでは、ギャップスリーブ風。

いくつもつなげていくと、ロボットの腕のよう。

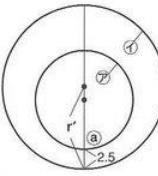
パーマネント加工できる素材で作りたい。



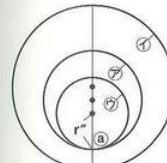
① 身頃の作図をする。肩幅が広く見えるデザインなので、袖ぐりを2cm内側に入れた。



② アームホールに縫い代分2cmを足した円周になる円⑦をかく。これが、袖つけ線になる。
 $r = \frac{AH+2}{6.28}$



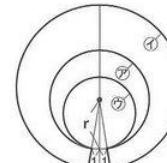
③ 袖の外円になる⑦をかく。好みの大きさでいいが、今回は半径r'=12cmにした。r'は袖下で⑦より2.5cm下がったところからとる。



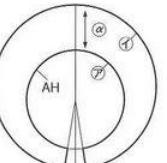
④ 袖口の円⑦をかく。⑦の半径'r'を求める。

$$r' = \frac{\text{袖口寸法} + 2(\text{袖ぐり}) + 2(\text{縫い代分})}{6.28}$$

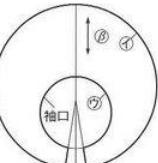
袖口寸法は肩線上で袖つけ線より5~6cm下がったところを1周した。



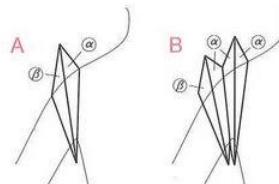
⑤ 縫い代分1cmを円⑦の中心からとる。



⑥ ⑦と⑦で構成されたパターンを⑧、⑨と⑦で構成されたパターンを⑩とする。この二つのパターンで袖ができる。



これは二つつなげた、サークルスリーブだ。パターンはAと同じだが、⑩のパターンが三つと⑦のパターンが一つでできている。数を増やす場合は、袖幅と袖口の円の位置を考慮する必要がある。

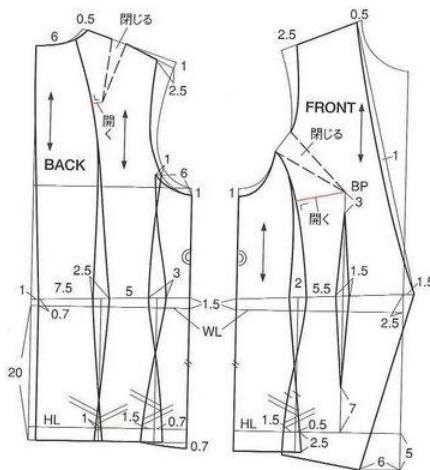


20ページ“四角のジャバラ”

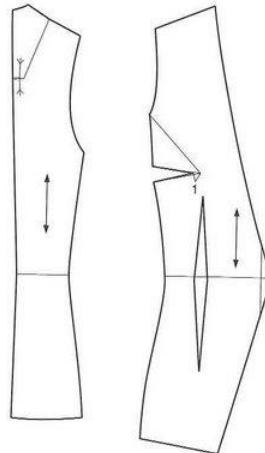
四角を重ねたジャバラは、きりっとシャープな表情。

グレーディングしたように規則的に少しづつ小さくなって、

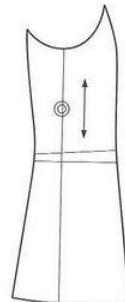
服のフォルムをいっそう美しく引き立てる。



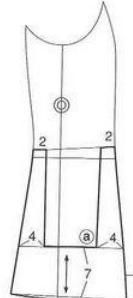
❶ ベストの作図をする。ウエストをフィットさせて、裾でフレアを出したデザイン。



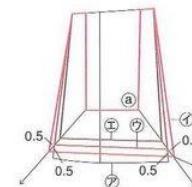
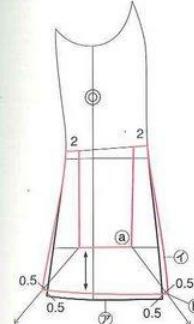
❷ 肩ダーツ、胸ダーツをたたんで展開する。



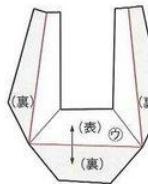
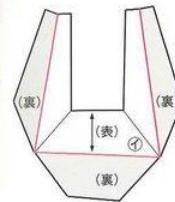
❸ 左の脇にジャバラを作る。



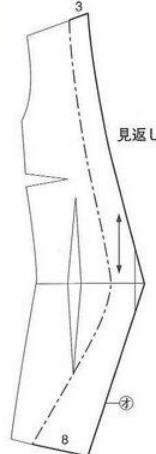
❹ ジャバラのいちばん下になる脇布は、ハイウエストから下の部分になる。ジャバラにするための穴をあけ、⑦とする。



❺ ②につなげる、2番目のジャバラを③とする。④は、⑦より裾から0.5cm短く、0.5cm幅を広くとり、できた角を⑧とする。⑨と⑩を直線で結ぶ。後ろ側も同様にする。⑦より0.5cm短く、⑧～⑩の線上に角をとって⑪、さらに0.5cm短くして⑫のジャバラとする。



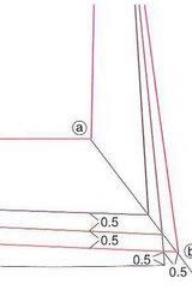
❻ ⑬⑭⑮は、裾、両脇の裏側にくるジャバラを裁ち出して1枚でできている。



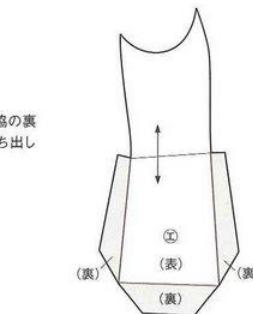
❼ 見返しを作図する。



❽ 右前端のジャバラのパターンを作る。❾の見返しを③とする。左脇のジャバラのように、上になるほど小さくなるように④⑤のパターンも作る。⑥⑦は縫い返すのでパターンは2枚必要。



❿ いちばん上のジャバラ⑫は、身頃のウエストから上の部分とパターンが一体になっている。また、⑩⑪⑫のように穴はあかない。



Part 2 デコレーションの仕組み

ねじったり、つまんだり、

垂らしてみたり……

布のさまざまに変化する表情を

自由に服に取り入れてみる。

サプライズだけでなく、

そこにエレガンスが表現できたときは

心からうれしい。

デコレーションの仕組みはぜひ、

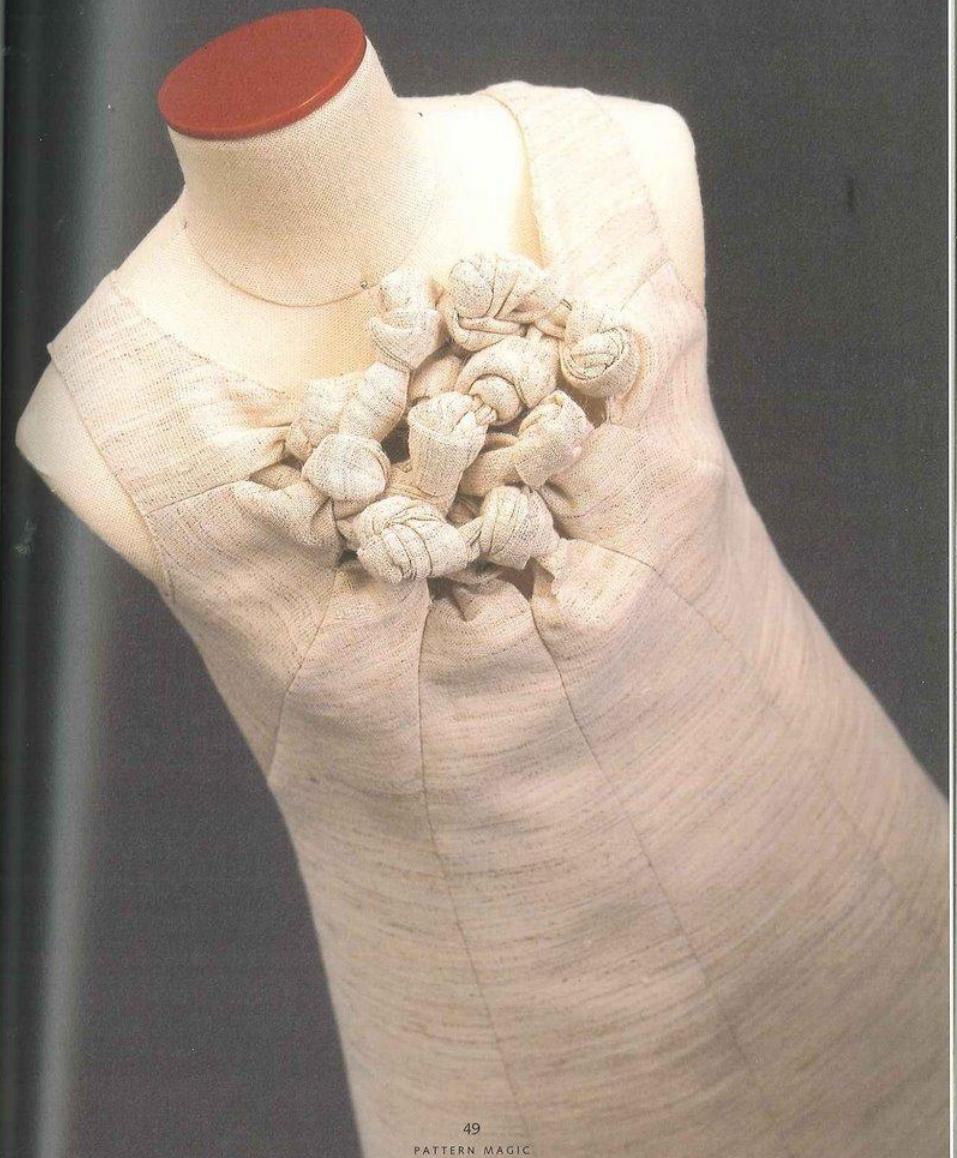
原型をベースにして、写し取ってほしい。

そうすれば思いのままに、

デザイン変化が楽しめる。

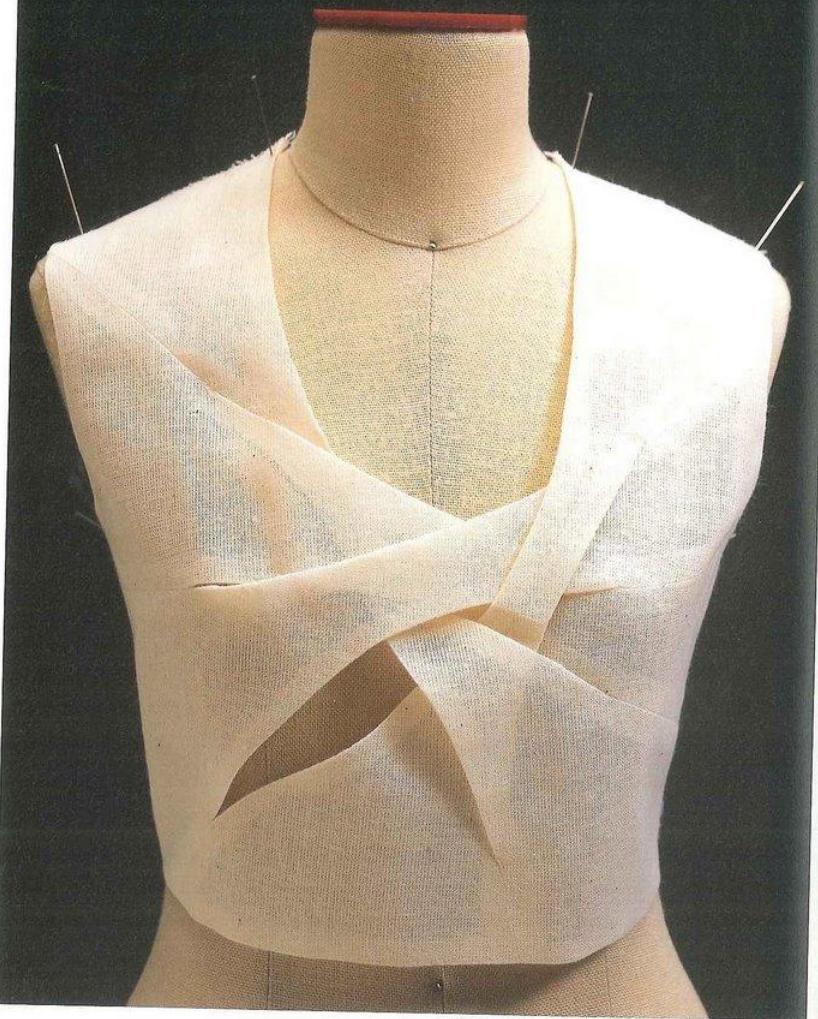


48
PATTERN MAGIC



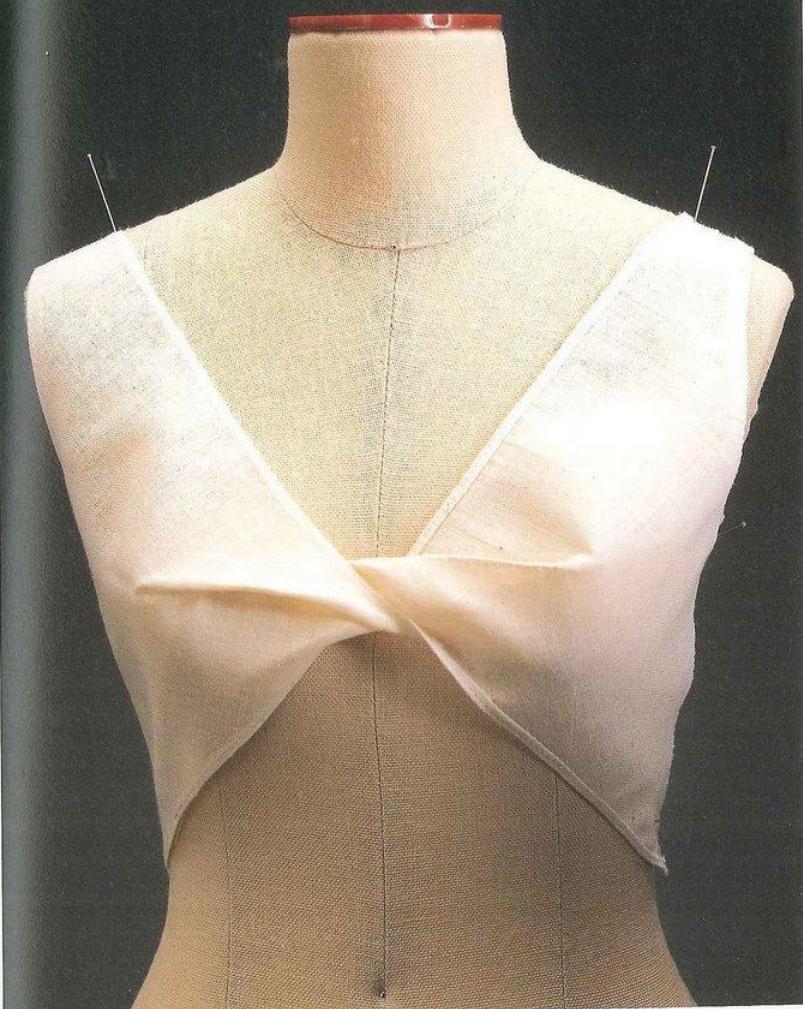
49
PATTERN MAGIC

ジャングル 解説64ページ



50
PATTERN MAGIC

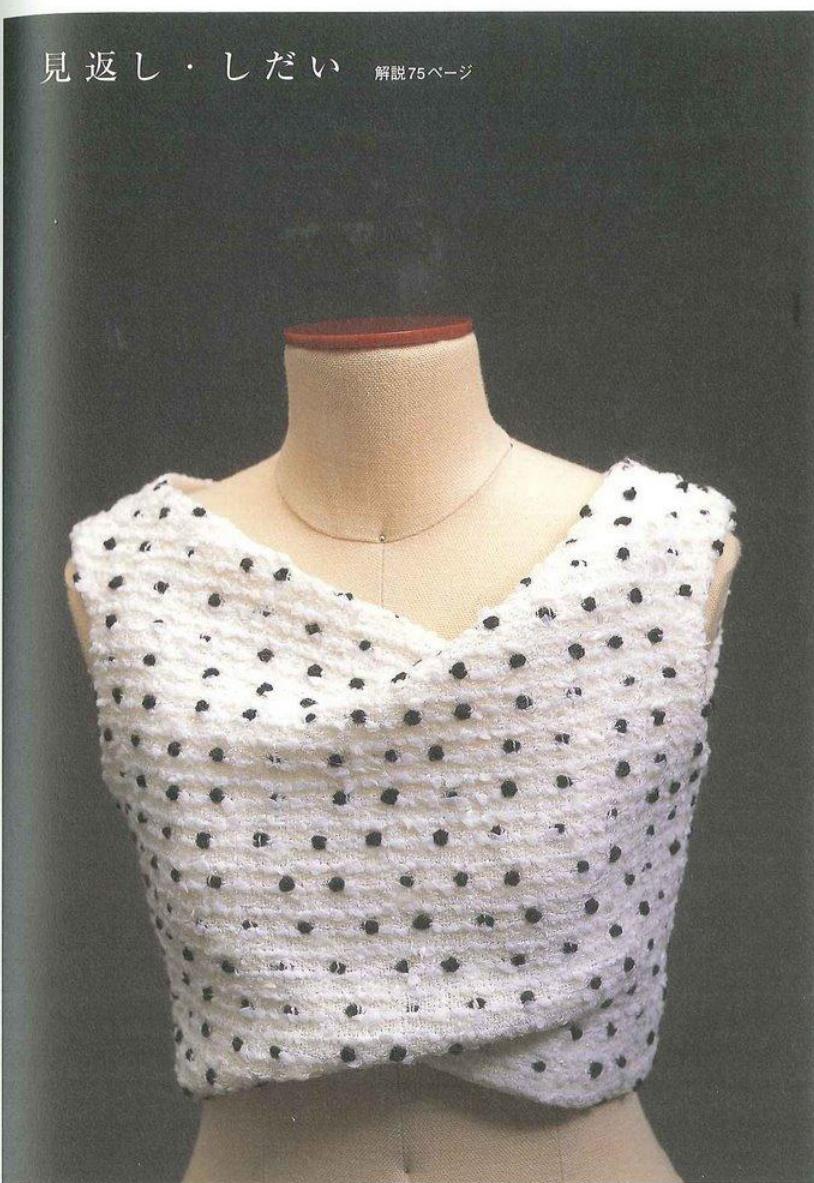
スター 解説66ページ



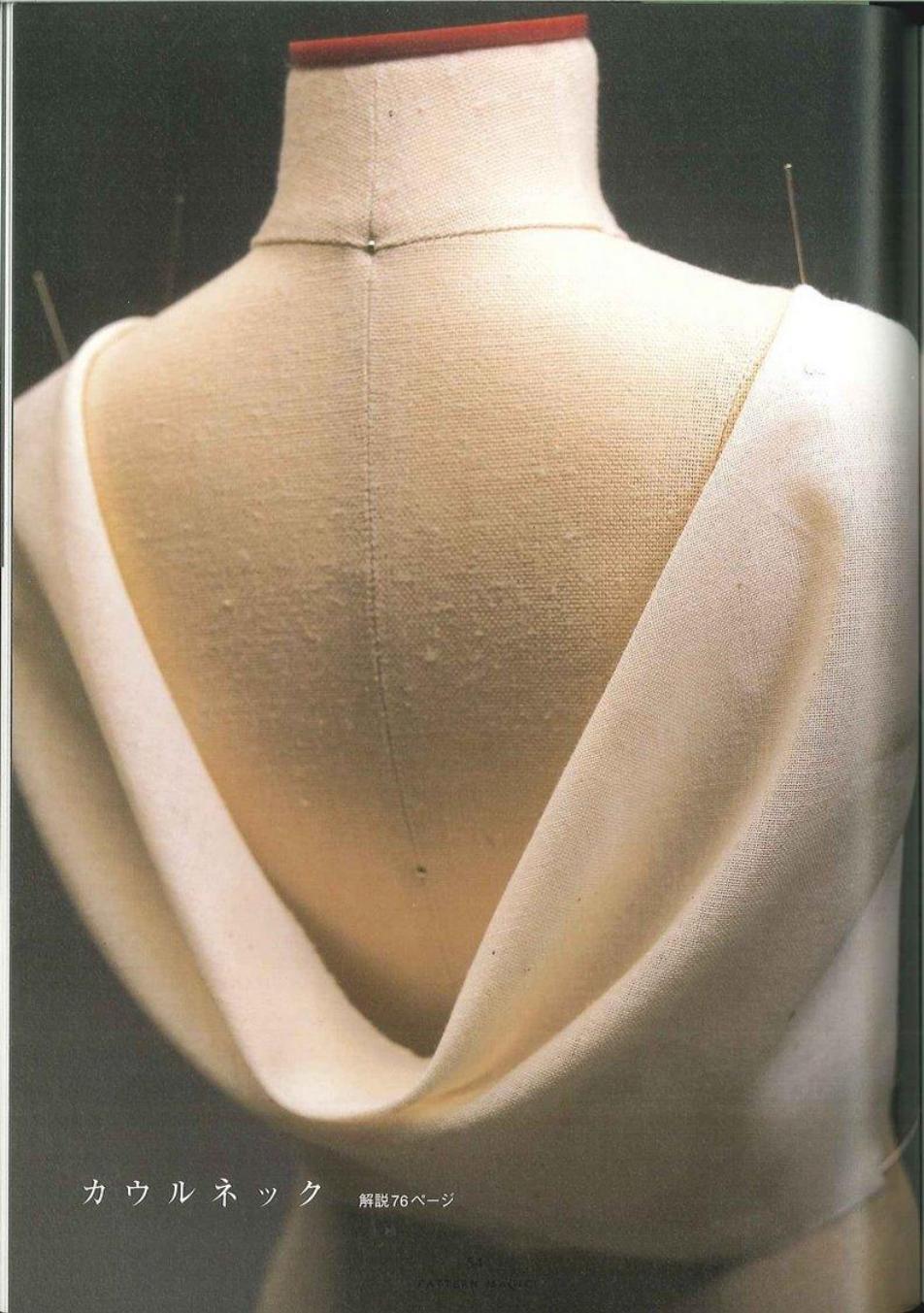
51
PATTERN MAGIC



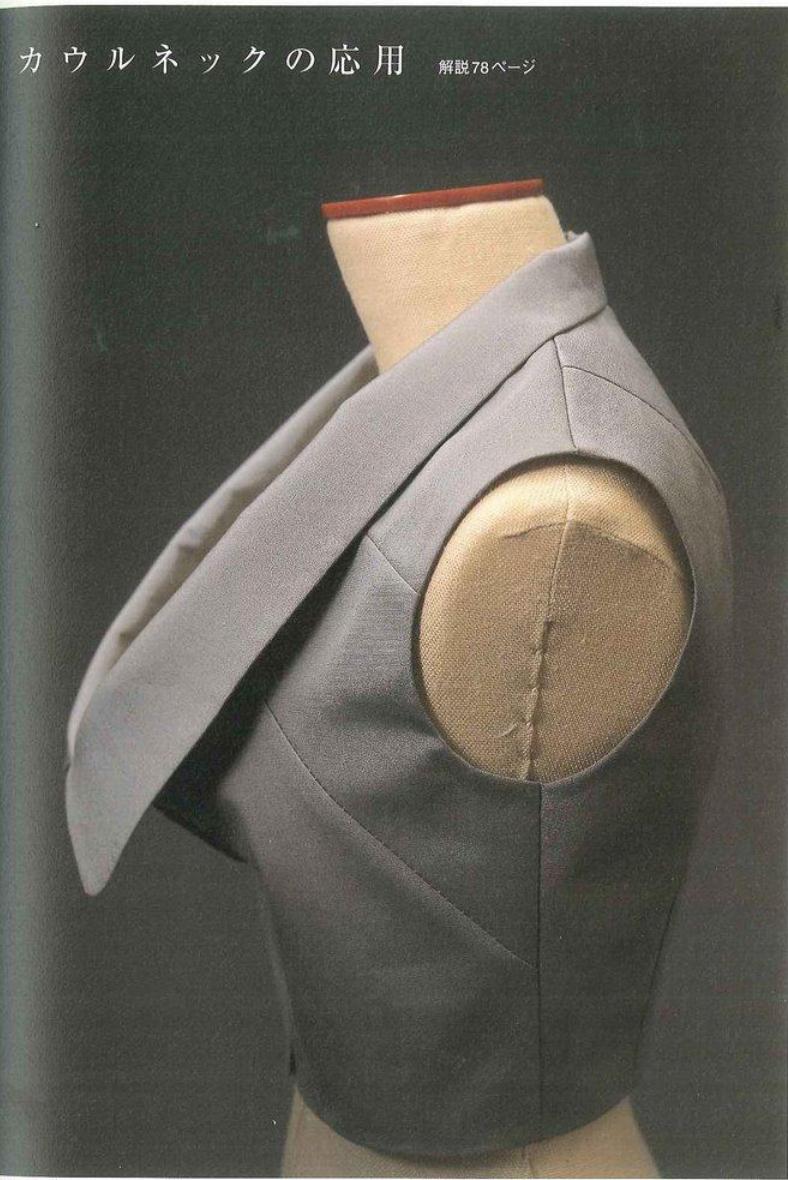
クイックターン
解説70ページ



見返し・したい
解説75ページ



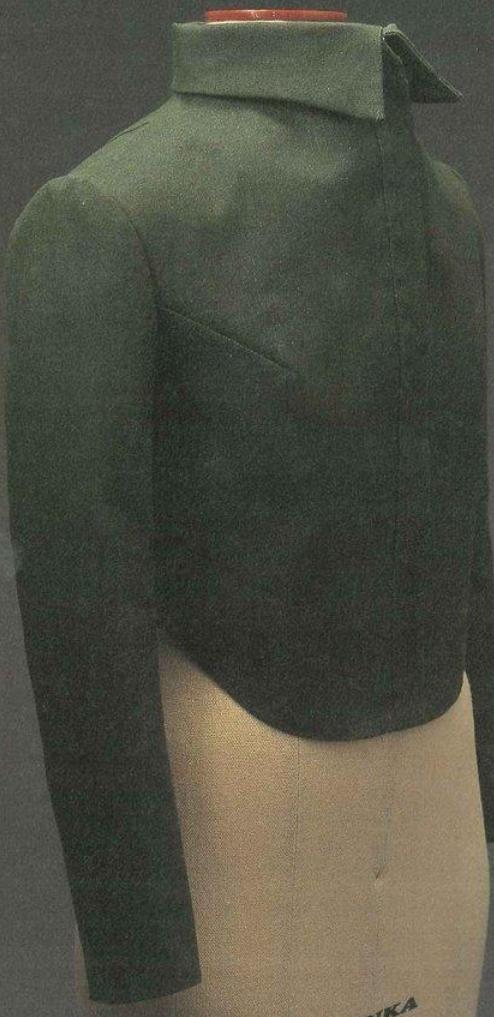
カウルネック 解説76ページ



カウルネックの応用 解説78ページ

カウルネックの応用

解説79ページ



PATTERN MAGIC

“デコレーションの仕組み”の
パターンを作る

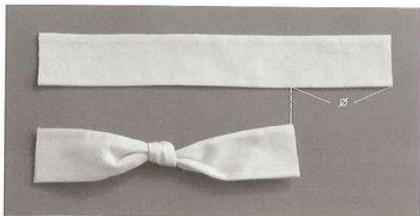


ノット

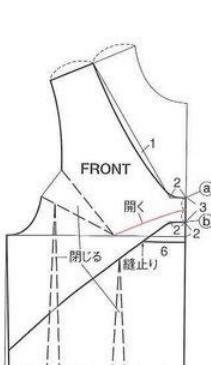
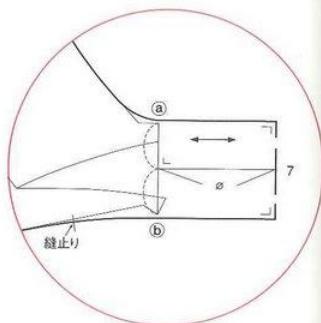
“結ぶ”という機能の形は、服の飾りとして充分美しいことに気がついた。

フォルムに自然に溶け込むように、パターンにする方法を考えてみた。

ノットを身頃に入れてみよう

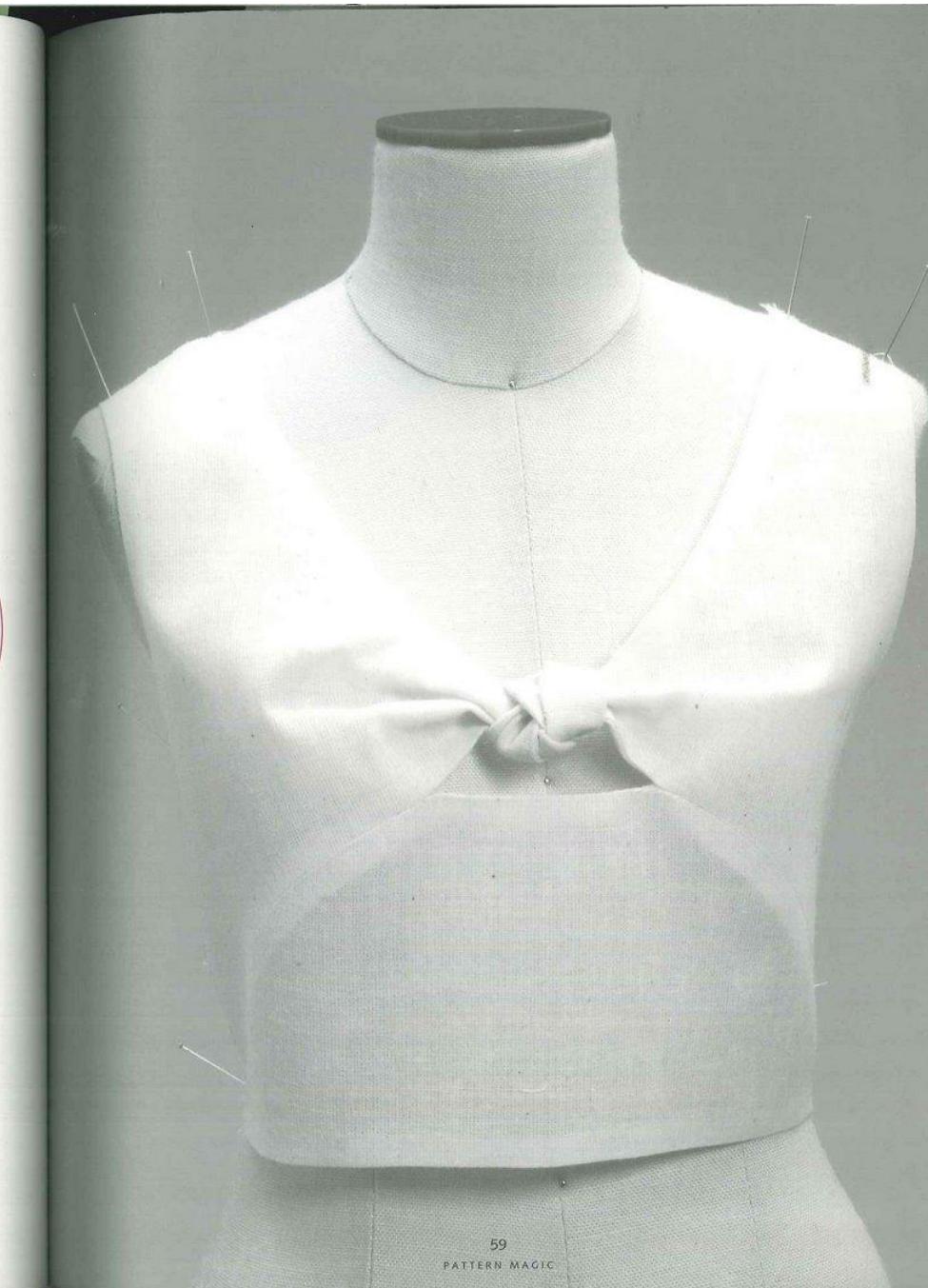


- ➊ 出来上りと同じ状態に縫い返したひも(幅7cm)を用意し、長さをはかっておく。
- ➋ ひもにノットを作り長さをはかる。 \varnothing =ノットの長さになる。



- ➌ 前身頃の作図をする。ノットの位置④⑤を前中心上にとる。④からノットの長さ \varnothing と、ひもの幅2cmをとり、衿ぐりと切替え線をかく。

- ➍ ダーツをすべてたたむ。④～⑥を2等分した位置からノットの長さ \varnothing と、ひもの幅2cmをとり、つながりよく訂正する。



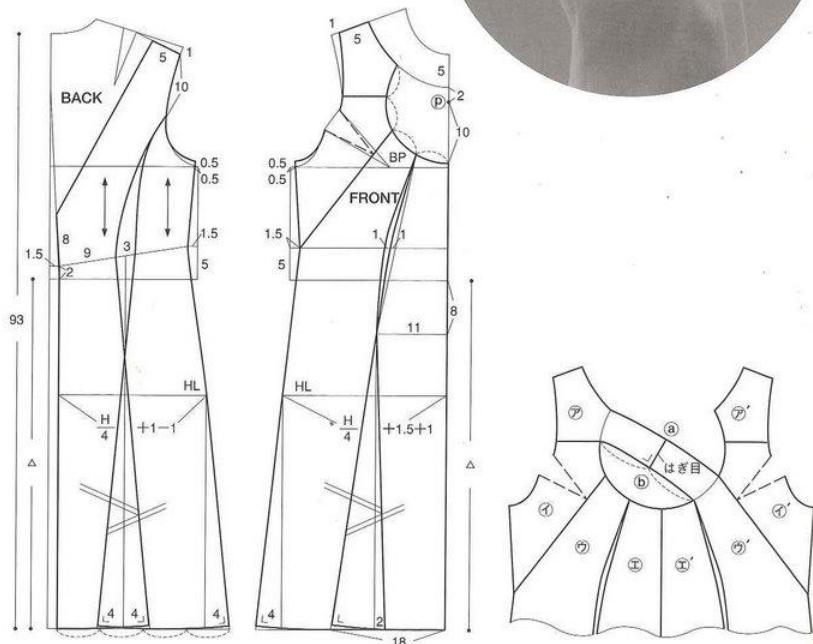
49ページ“ノット”

身頃にデザインされたノット(結び玉)。

鈴のように音が聞こえてきそうな気がする。

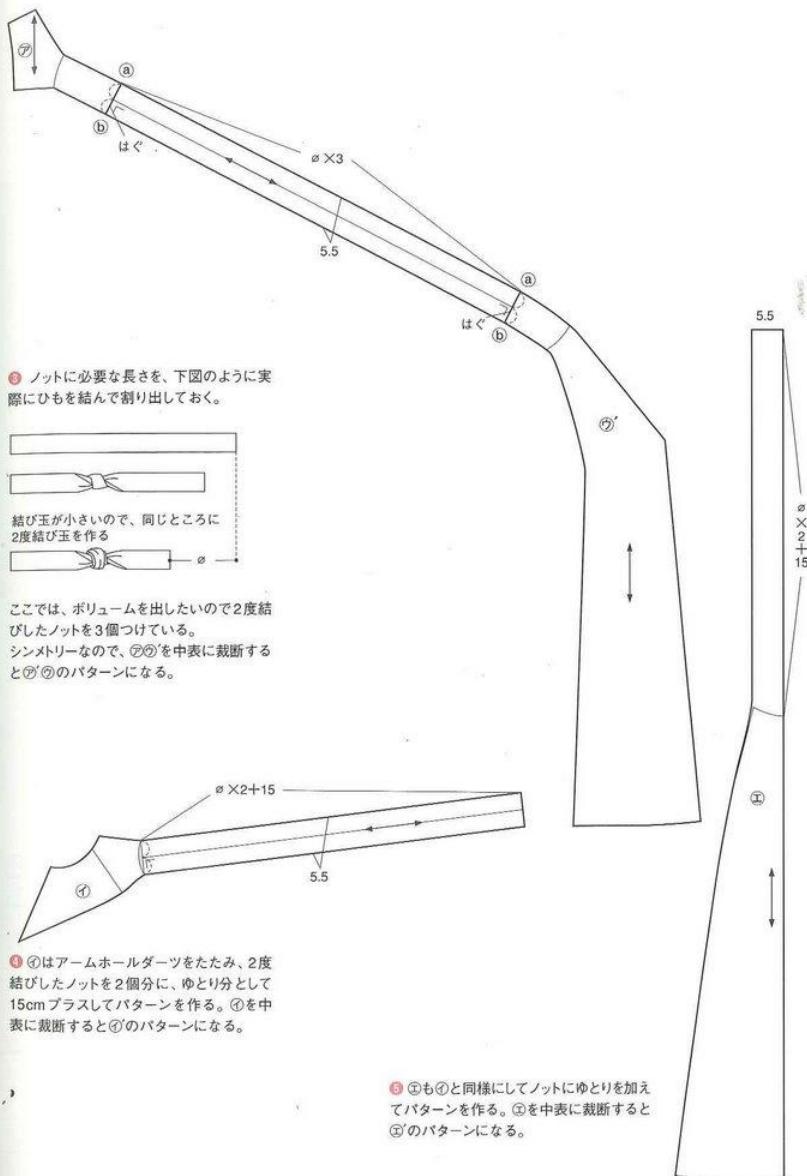
ランダムにいくつもつけたら、たくさんの音がにぎやかな、

インパクトのある服が出来上がった。



① 作図をする。②を中心半径10cmのネックラインをかき、4等分した衿ぐりに向かって身頃を四つのパートに分ける。

⑤ 半身で四つのバーツに分けられた身頃を、右は⑦⑧⑨⑩、左は⑪⑫⑬⑭とする。胸もとにノットを作るのはいろいろあるが、最初に左からたすのきのようにノットを作ったまわりをかけると身頃が安定する。あるいは好きなところにノットを作り、あとから止めつける方法もってみた。まず⑦と⑩をひもでつなげる。ひもの部分の位置⑧～⑩にはぎ目を入れる。シンメトリーなので⑪と⑫も同様にたすきがけにする。

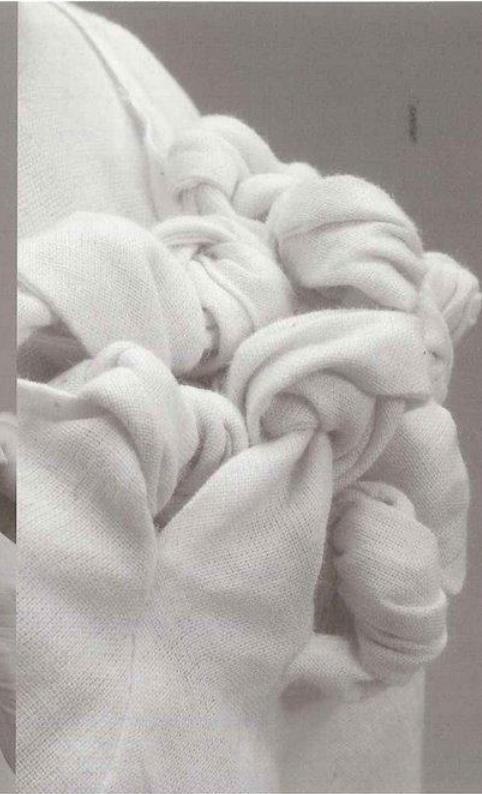


④ ④はアームホールダーツをたたみ、2度結びしたノットを2個分に、ゆとり分として15cm プラスしてパターンを作る。④を中心表に裁断すると④のパターンになる。

⑤ ④も⑦と同様にしてノットにゆとりを加えてパターンを作る。⑦を中表に裁断すると⑨のパターンになる。

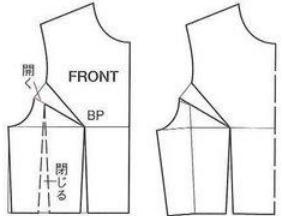


ノットのついたひもをたすき掛けにしたらボディに着せ、ほかの4本はすきまを埋めるようにノットを作り、表から見えないところで縫い止める。

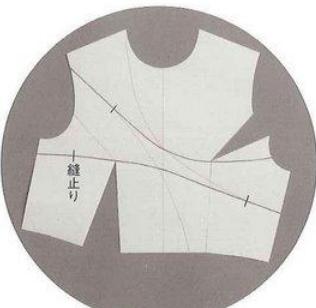
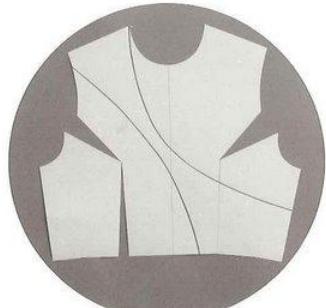


50ページ“ジャングル”

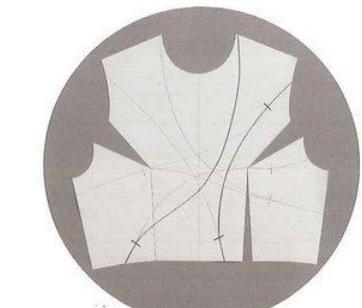
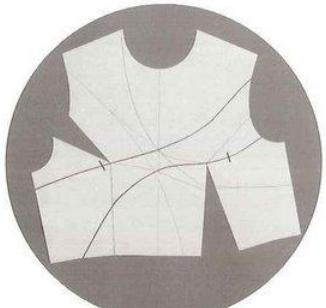
前身頃の、自由な切替えのラインが交差して、重なり合って作る縦横無尽な表情、まるでジャングルのようだ。



① 原型のダーツを切り抜く。



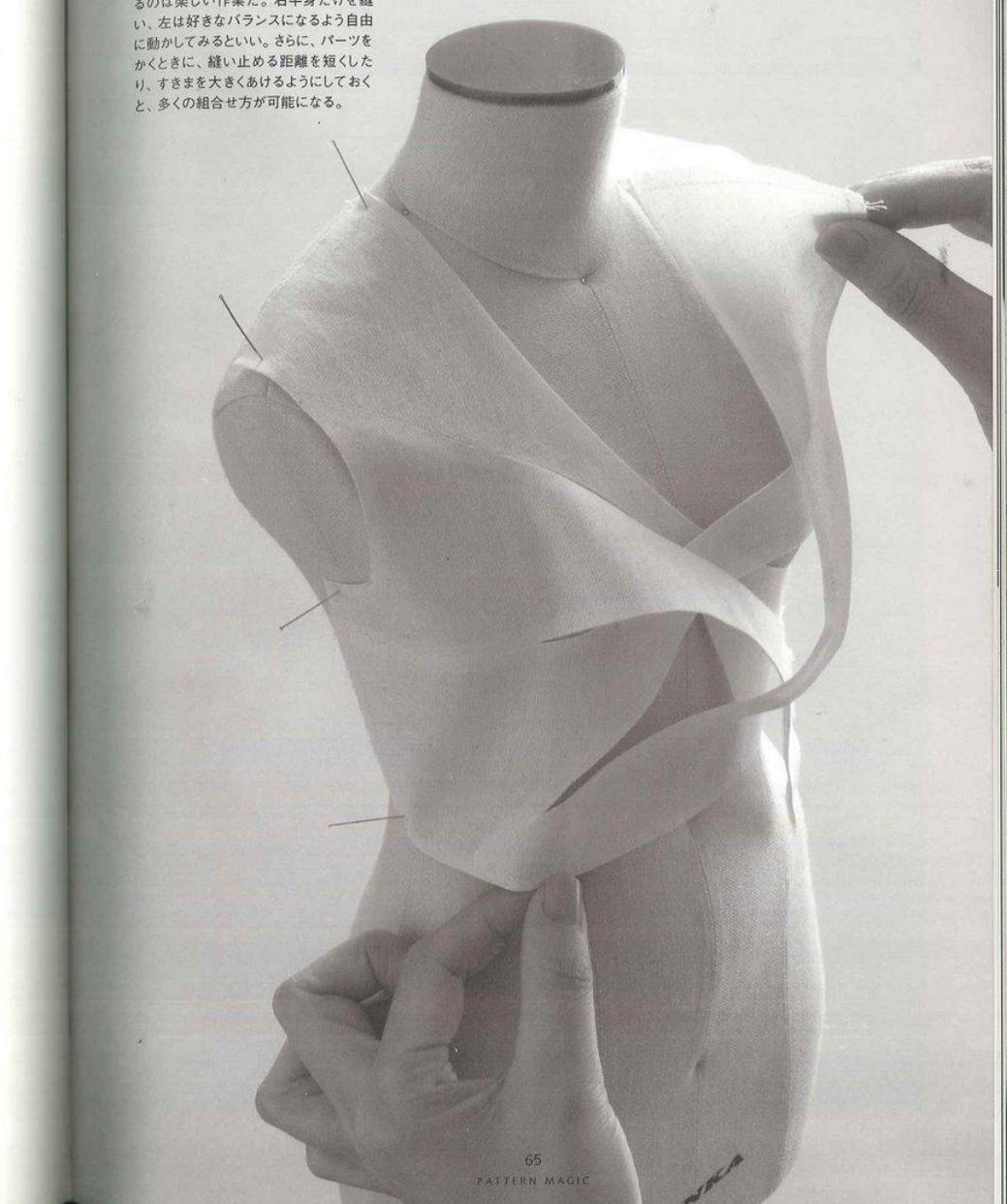
② 最初のパートをかく。絵をかくように自由にラインを入れる。このときダーツにかかる場合は、ダーツを突き合わせてラインをかく。



③ 三つ目のパートをかく。縫止りを入れる。

④ 四つ目のパートをかく。縫止りを入れる。

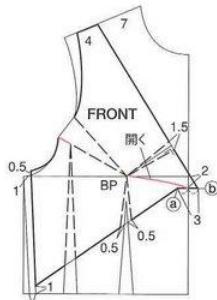
パートの組合せ方を、いろいろ試してみるのは楽しい作業だ。右半身だけを縫い、左は好きなバランスになるよう自由に動かしてみるといい。さらに、パートをかくときに、縫い止める距離を短くしたり、すきまを大きくあけるようにしておくと、多くの組合せ方が可能になる。



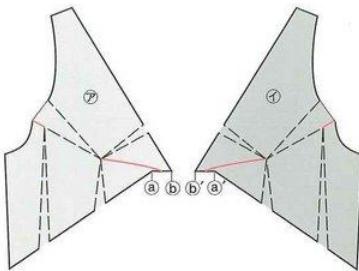
51ページ“スター”

胸もとでねじって、伸縮素材のよう体にフィットさせてデザインした。

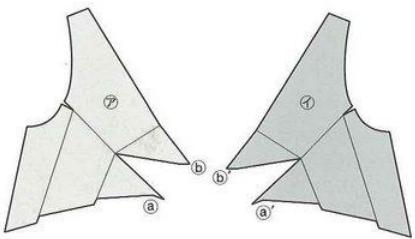
胸もとの放射状の布の重なりが、星(スター)のペンダント。



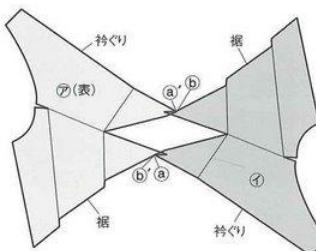
① 作図をする。体にぴったりと合わせると衿ぐりやアンダーバストに余りが生じるので、たたんで胸ぐせに追加する。



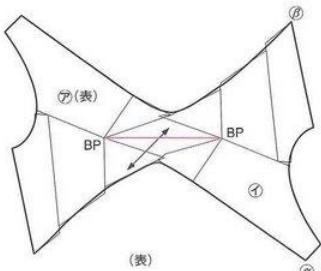
② 左右のパターンを⑦と①に分ける。⑦の⑦(a)と⑦(b)を、①の①(a)と①(b)とする。



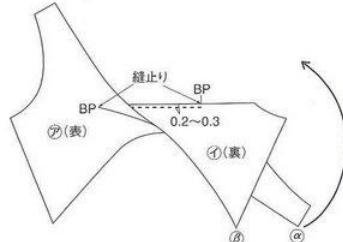
③ ダーツはすべてたたむ。



④ ⑦は上下を逆にする。⑦の⑥と①の③'、⑦の④と①の⑤'を合わせる。



⑤ 衿ぐりと据線をつなぎりよくかく。⑦と①のバストポイント間を結ぶ。①の肩先を②、据端を③とする。



⑥ ⑦を手前に折る。バストポイント間にコバステッチをかける。これは、ねじったときの折り山をはっきりをつけるため。⑦を後ろから回してねじる。ねじっているので⑦は裏面が出る。

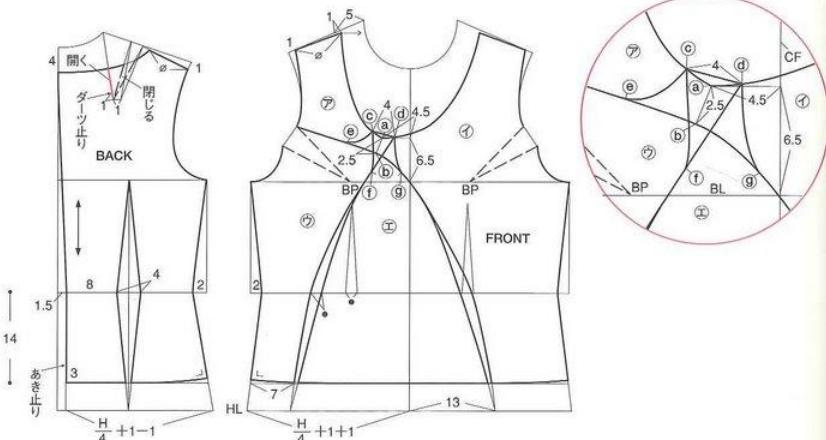


ドレープを クイックターン

水泳の折返し点で行なうクイックターンのように、
ドレープを回転してターンさせたら、より深い陰影が加わった。



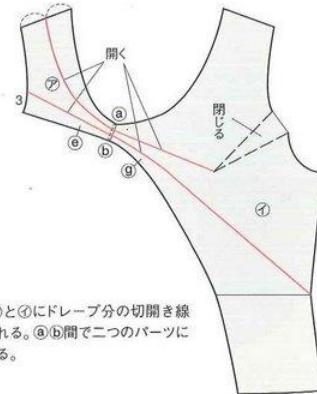
クイックターンの仕組みを知ろう



① 作図をする。前身頃にギャザーの寄っていない状態の切替え線を入れる。
まず⑦⑧をかき、⑨⑩をまたいだ⑪⑫を自由に絵をかくように入れる。ウエストのダーツは切替え線に入れる。



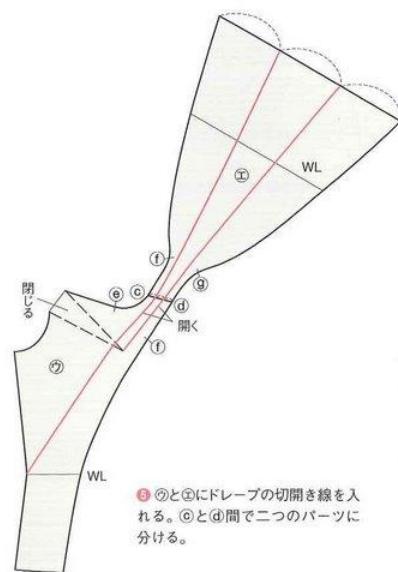
② ⑨がターンして⑩につながっているのがわかる。



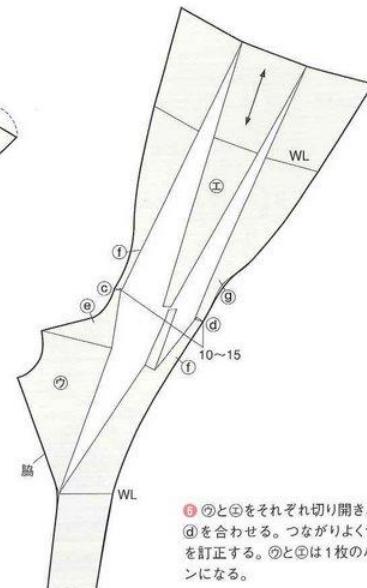
② ⑦と⑧にドレープ分の切開き線を入れる。⑨⑩間で二つのバーツに分ける。



③ ⑦と⑧をそれぞれ切り開き、⑨と⑩を合わせる。つなぎよくラインを訂正する。②と⑦は1枚のパターンになる。



④ ⑦と⑧にドレープの切開き線を入れる。⑨と⑩間で二つのバーツに分ける。



⑤ ⑦と⑧をそれぞれ切り開き、⑨と⑩を合わせる。つなぎよくラインを訂正する。②と⑦は1枚のパターンになる。

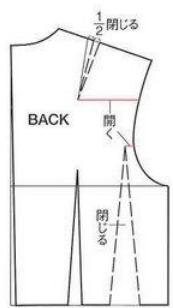
〈縫い方順序〉

- ① ⑦と⑧を縫止り⑩まで縫う。
- ② ⑨を⑪～⑫でねじり、⑨⑩を縫止り⑦まで縫う。⑦は裏面が出る。
- ③ ⑨と⑩を縫止り⑩まで縫う。
- ④ ⑨の部分は裏面が出るので、布選びは注意したい。

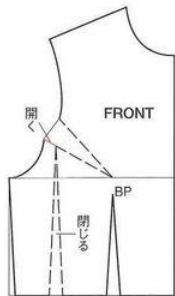
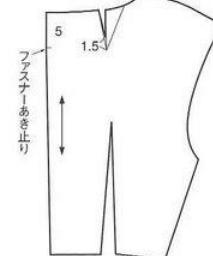
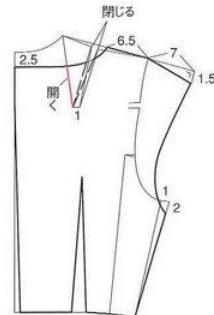
52ページ“クイックターン”

クイックターンしたドレープが、胸もとのスリットから現われた。

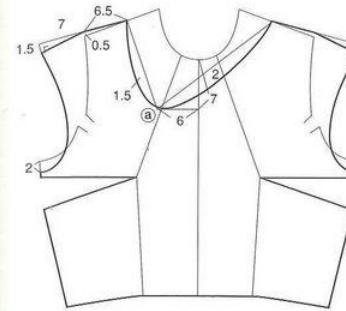
さらに複雑になった布の表情が美しい。



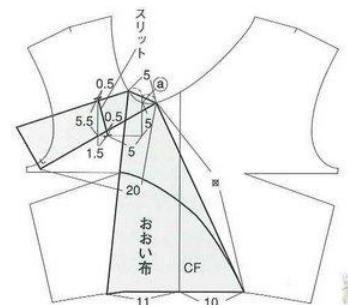
➊ 後ろ身頃の作図をする。



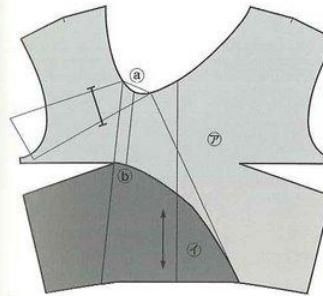
➋ 前身頃の作図をする。衿ぐりの大きくあいたデザインなので、前の衿ぐりの浮いてしまう分を閉じて脇ダーツに加える。



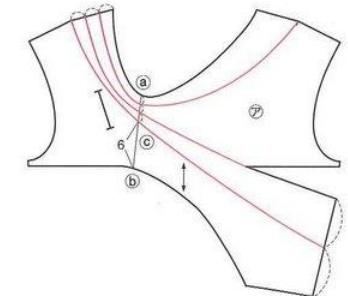
➌ ダーツはすべて閉じる。アシメトリーな衿ぐりのラインをかく。衿ぐりのいちばん深い部分を⑧とする。



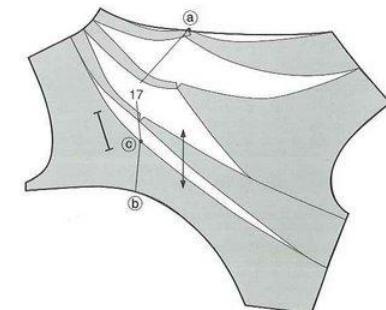
➍ ウエストから衿ぐりに向かっておおい布をかき、スリットの位置を決める。衿ぐりでターンさせたおおい布をスリットにおさまるようにかき、おおい布で隠れるように、身頃の切替え線を入れる。



➎ 前身頃は二つのパート、⑦と⑧に分かれる。⑦の⑧から、おおい布の端に平行に⑥をとる。



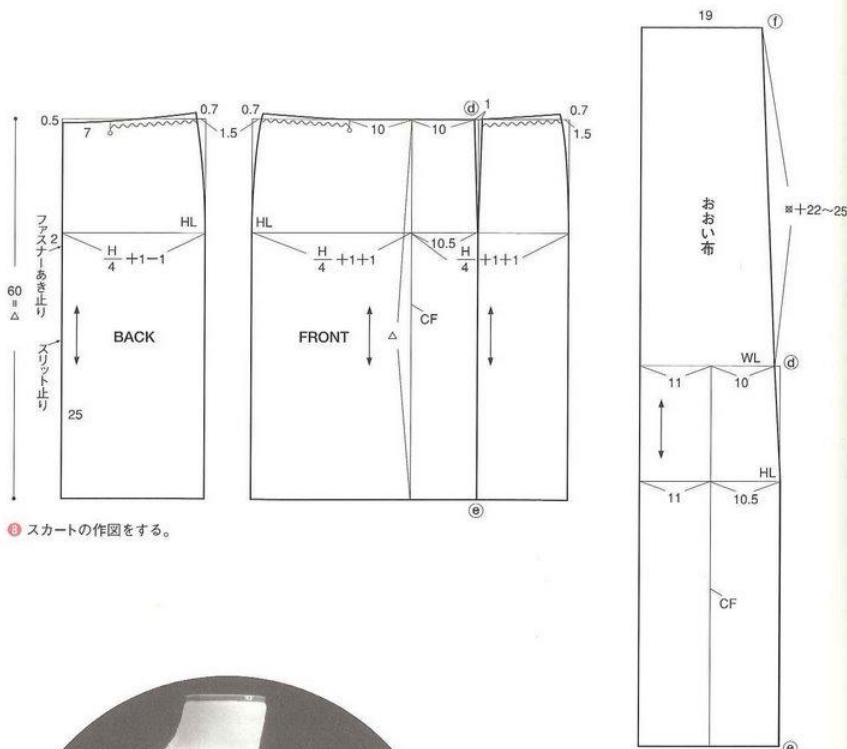
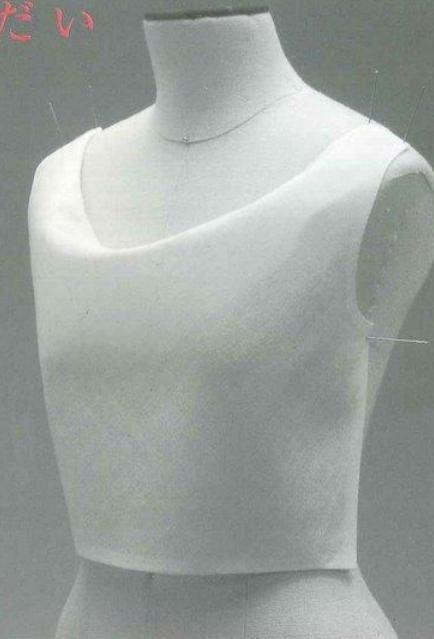
➏ ⑥から6cm上を⑤とする。⑧～⑥間を3等分し、ドレープの切開き線を、スリットの位置をはずしてかく。



➐ ⑧～⑥間を17cm開き、衿ぐり線をかく。

見返し・したい

同じ身頃の同じ形の衿ぐりに、
違う形の見返しをつけてみた。
表には見えない見返しの形が、
完成した服にシルエットのように現われる。
ふだん脇役の見返しが
表の表情を決めている。

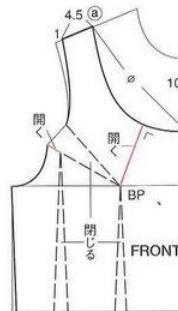


⑧ スカートの作図をする。

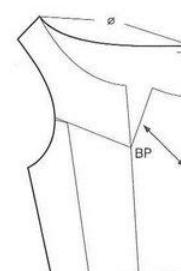


⑨ おおい布は前スカートの④～⑥に縫い込むので、スカートのパターンをベースにして作図する。ウエストラインから上は身頃から離れていて、衿ぐりでターンし、スリットから出でてくる仕組みになっている。ウエストから上の長さに、①の※+22～25cmを加えたものがおおい布の長さになる。

基本の前身頃

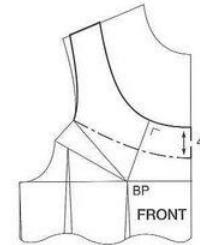


① 前身頃の作図をする。衿ぐりを丸くかき、バストポイントから衿ぐりに向かって直角に切開き線を入れる。衿ぐり寸法を④とする。



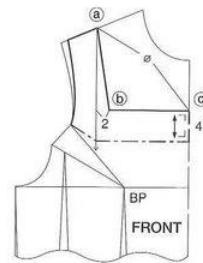
② ダーツをすべてたため、衿ぐりで開く。④寸法になるように、前中心を延長した線上に、身頃の衿ぐりのラインを引く。柔らかい表情を出したいので、布目は前中心でバイアスにするのがポイント。

見返しがカーブ



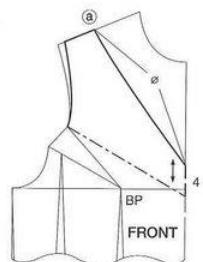
切り開く前の身頃の衿ぐりに見返し線を入れる。

見返しがスクエア



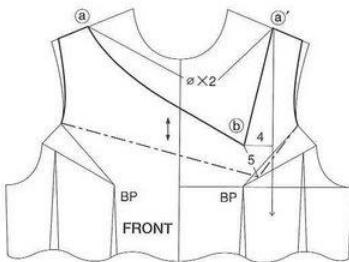
スクエアな衿ぐりをかく。⑧～⑨～⑩がø寸法になるようにする。

見返しがV



Vネックラインの衿ぐりをかく。⑧からø寸法になるようにする。

見返しがアシメトリー



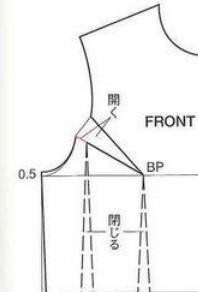
アシメトリーな衿ぐりをかく。⑥を決め⑧～⑨～⑩'がø×2になるようにする。
身頃の衿ぐりが⑤で引っ張られるので、布が交差したように見える。

53ページ“見返し・したい”

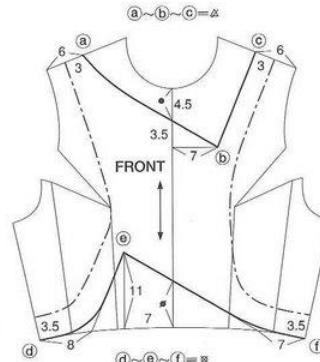
衿と裾のアシメトリーなドレープ。
複雑で、柔らかい布の動きが
絵画に描かれた衣装のようにエレガント。



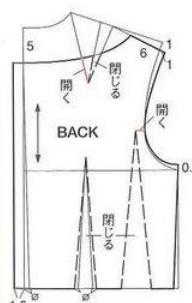
見返しによって衿ぐりや裾の形が変化す
るので、見返しを決めてから表の作図を
したほうが、形を出しやすいこともある。



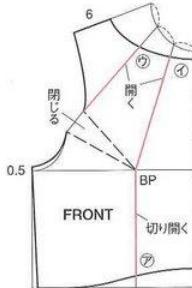
① 前身頃の見返しの作図をする。ウエ
ストダーツをすべてアームホールダーツ
に移動する。



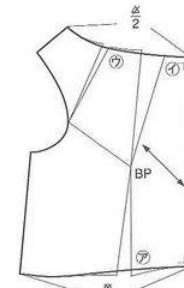
② アシメトリーな衿ぐりをかく。⑧
～⑨～⑩の衿ぐり寸法をøとする。
布が重なって見えるように、裾は
衿ぐりと逆のアシメトリーにかく。
④～⑧～⑩の寸法をøとする。



③ 後ろ身頃の作図をする。肩ダーツは
衿ぐりに移動する。
(後ろ身頃の見返しは省略する)



④ 前身頃の作図をする。前中心で衿ぐ
りは1cm、裾は3cmカットする。このと
き②のø寸法より多くならないよう
にする。差が大きいほど、完成時の布の
重なりが多くなる。



⑤ 裾が $\frac{\text{ø}}{2}$ になるようにアームホールダーツ
をたたんで⑦で切り開く。残りのアーム
ホールダーツをたたんで⑧で切り開く。
次に衿ぐりが $\frac{\text{ø}}{2}$ になるように⑨でさら
に切り開く。衿ぐり、裾のラインをかく。

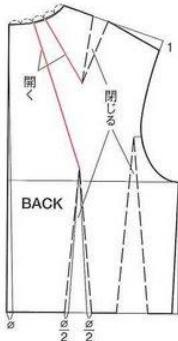
54ページ“カウルネック”

両肩からのエレガントな布の流れ。

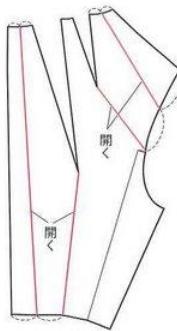
横から見るとフィットしたボディからドレープが突き出ているようだ。

“カウルネック”は中世の高僧衣に由来するとか……

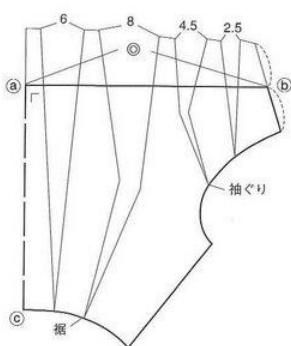
優雅なドレスに取り入れたい。



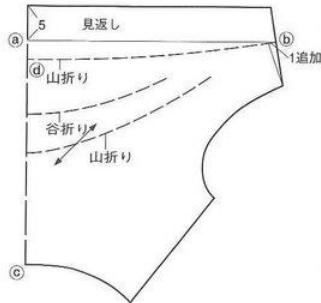
❶ ドレープを作図する。衿ぐりにドレープを作るので、ダーツはすべてたんてんで衿ぐりで開く。



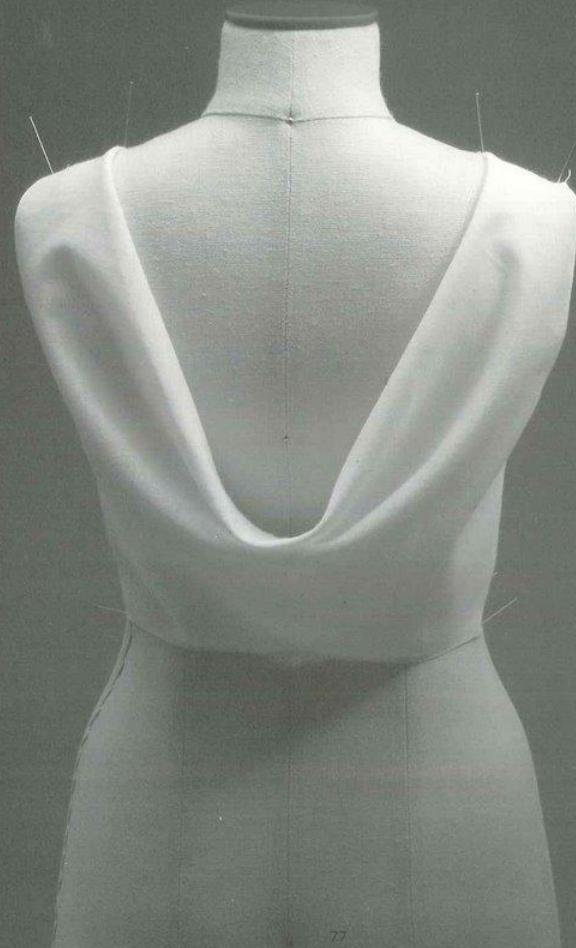
❷ 衿ぐりの切開き線を追加する。



❸ 切開き分量は中心側を多く、肩線側は少なく配分して開く。肩幅を決め⑤とし、後ろ中心線と直角に交わる線をかき、後ろ衿ぐりとする。

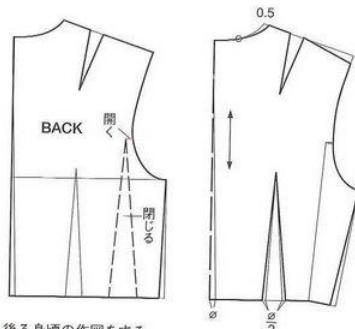


❹ ❺ のパターンに、衿ぐり(④～⑥)上で見返し分5cmを追加した布を裁ち出す。ボディに着装すると④のように折り線が下がってくる。さらに落ち着くところに、2本目の山折り線ができる。

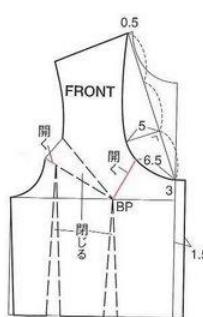


55ページ“カウルネックの応用”

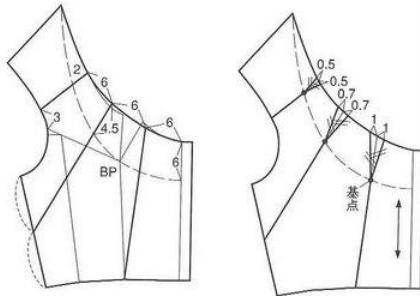
衿ぐりがふわっと広がったシルエットは、
横から見ると花開いたゆりの花のようにエレガントだ。



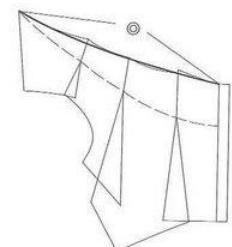
① 後ろ身頃の作図をする。



② 大きくあいた前の衿ぐりをかく。



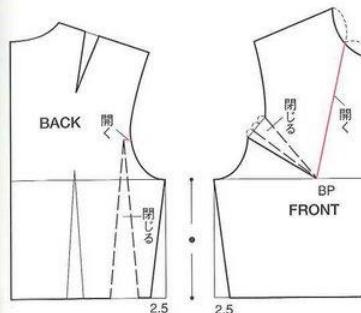
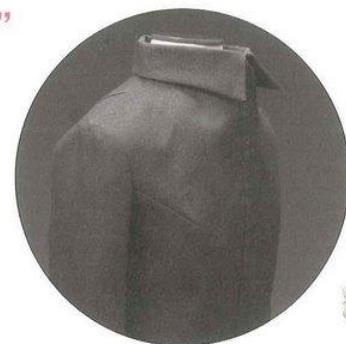
③ ダーツはすべてたんてで衿ぐりで開く。衿ぐりの外側に、バストポイントを通る大きいカーブを破線でかく。この破線は花びらが開くように衿ぐりを開いていくスタート位置である。



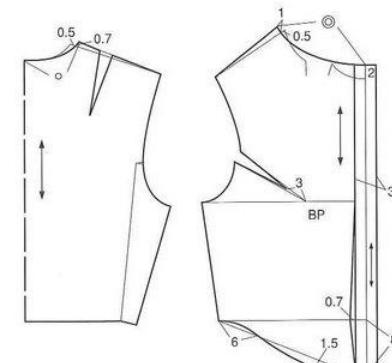
④ パターンをつなげて衿ぐりを訂正する。

56ページ“カウルネックの応用”

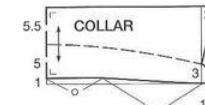
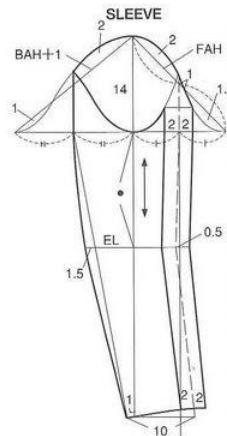
衿ぐりを大きく切り開くとドレープになるが、少しだけ開いて、はと胸のようなシルエットのシャツにしてみた。
張りのある布で作るとより効果的だ。



① 作図をする。アームホールダーツの $\frac{2}{3}$ を閉じて、衿ぐりで開く。残りの $\frac{1}{3}$ はダーツにする。



② 洋服するとつれるので、衿ぐりを前後それぞれ追加する。



③ 衿と袖の作図をする。個性的なボディとのバランスをとるために、袖はほっそりした長めの丈にした。

Part 3 消える……

パターン マジック!

本物のマジシャンのように

パターン操作で

服の一部が消せたらおもしろい、と思った。

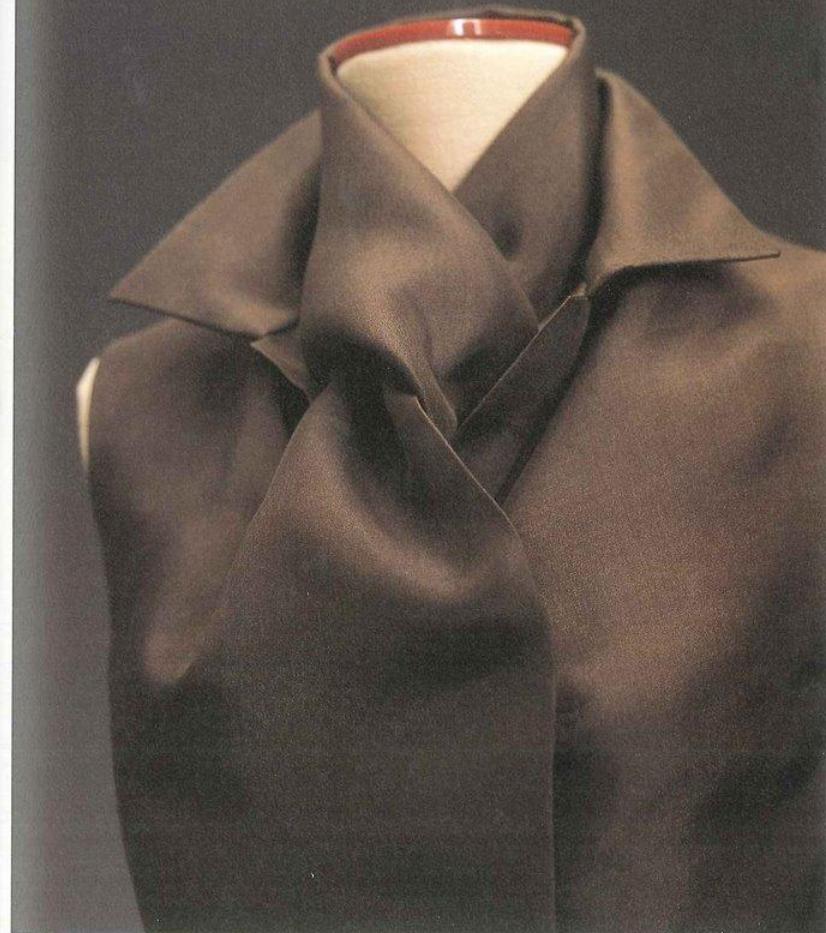
トロンプ・ルイユ(だまし絵)という

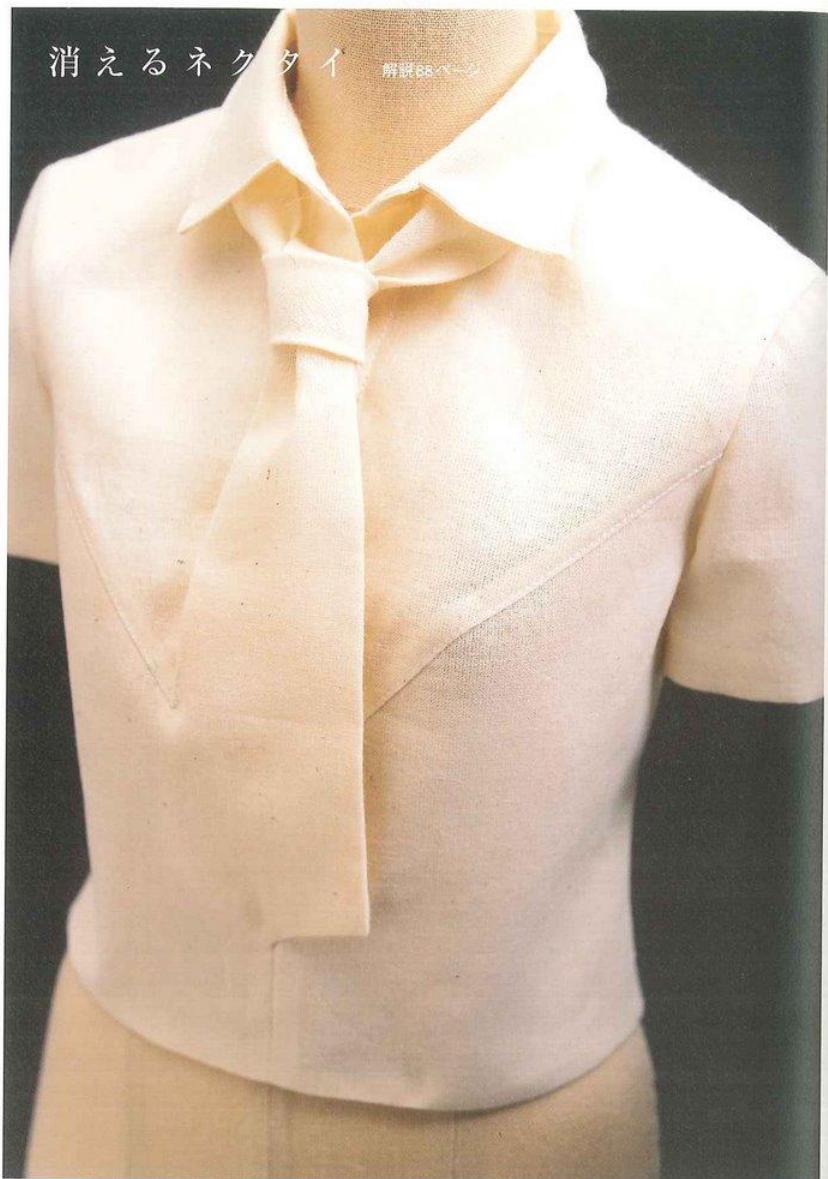
目の錯覚ではなく、

種も仕掛けもパターンしたいで。

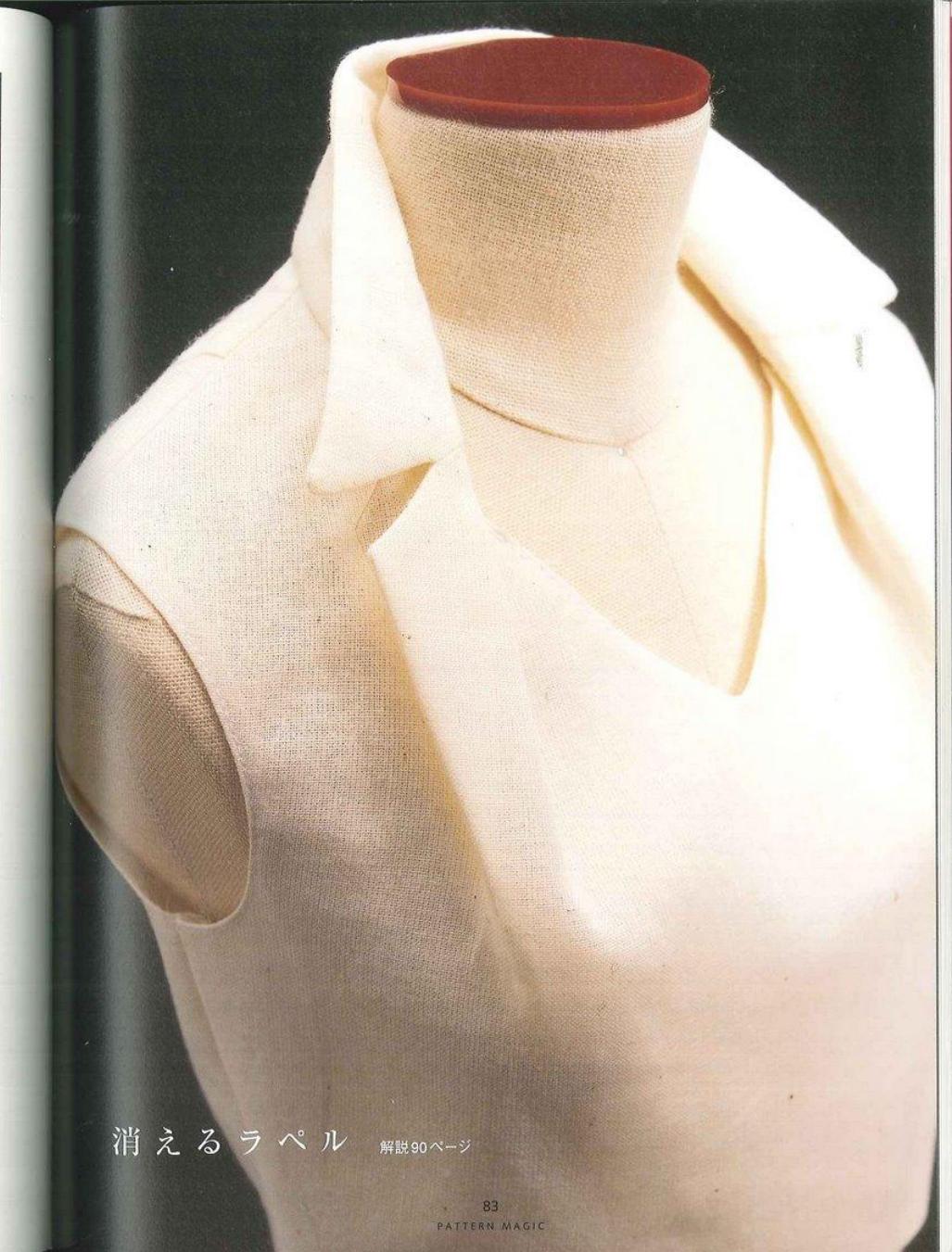


消えるスカーフ 解説86ページ





82
PATTERN MAGIC



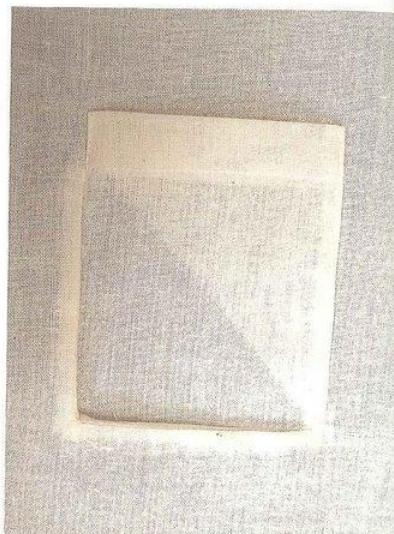
83
PATTERN MAGIC

消えるポケット 解説92ページ

A

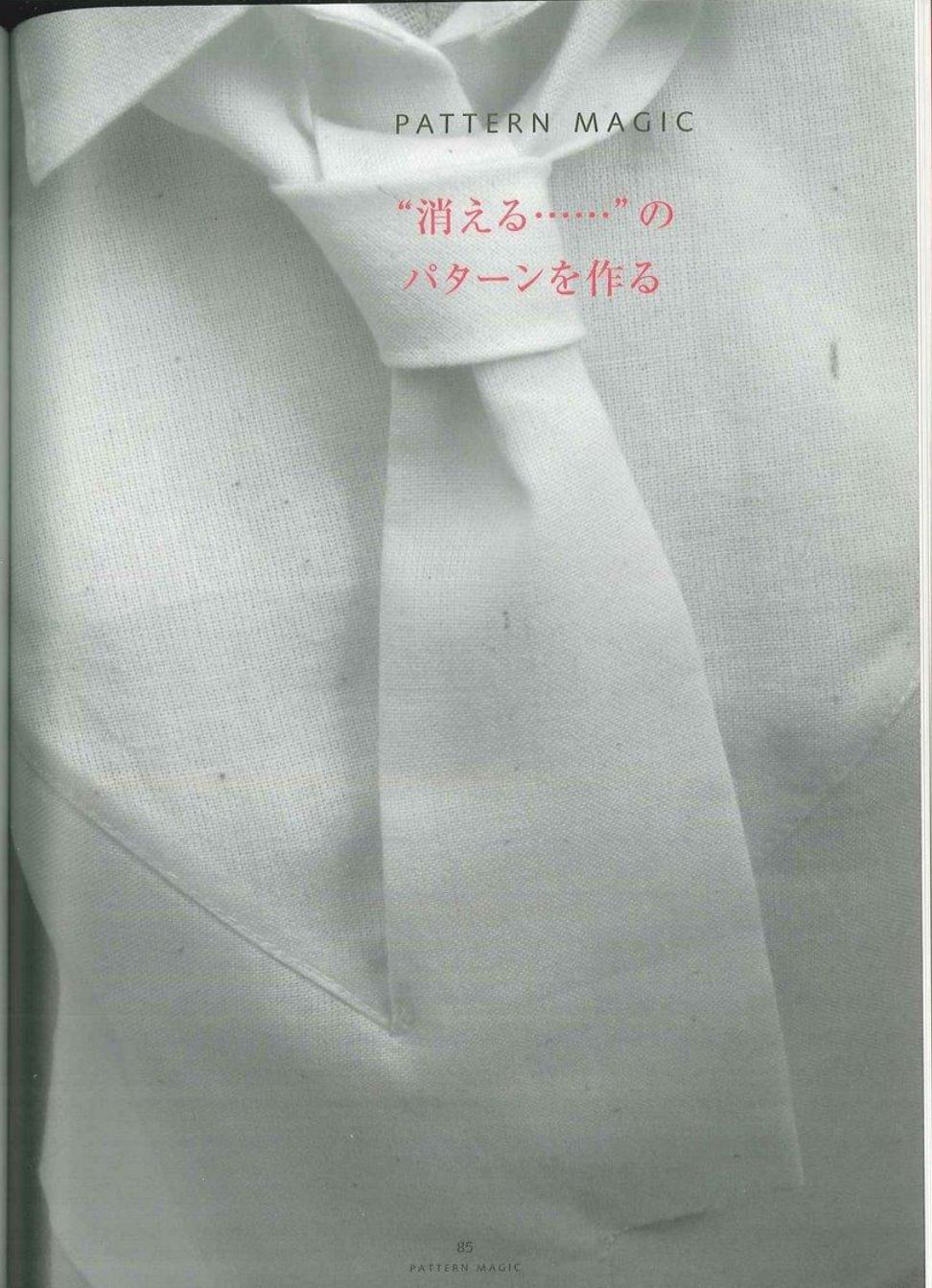


B



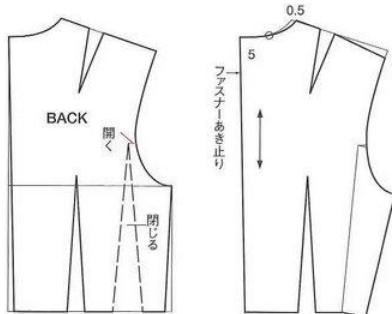
PATTERN MAGIC

“消える……”の
パターンを作る

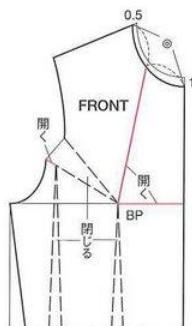


81ページ“消えるスカーフ”

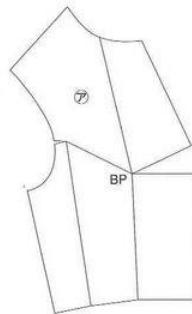
首にふわっと巻いたスカーフが、
身頃に溶け込んで、消えた!



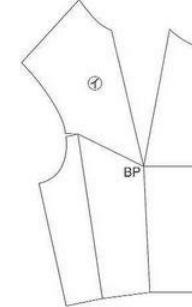
① 作図をする。後ろ身頃の脇側のダーツはたたむ。



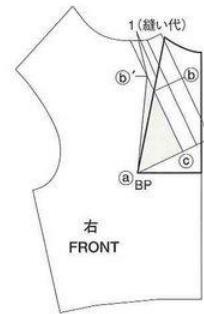
② 前身頃は、バストラインと衿ぐりの2か所で、それぞれダーツをたたんで切り開く。



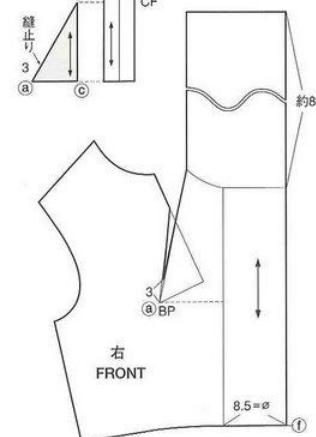
③ バストラインで切り開くパターンを⑦、衿ぐりで切り開くパターンを⑧とする。



④ ⑦のパターンのBLから上に前立てをつける。バストポイントを⑨とする。



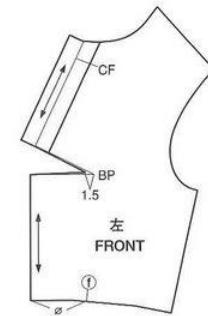
⑤ 上前身頃の作図をする。⑦のバターンに、⑧のバターンを重ねる。⑨はスカーフが溶け込んで、消えるほうの身頃になる。スカーフをつなげると身頃と重なる部分ができるので、身頃のほうは別裁ちにする。⑩(⑪⑫)の三角形の部分になる。三角形の⑩～⑫を身頃と縫い合わせるのに、縫い代が必要なので1cmゆとりを入れ、⑪を⑫へ移動する。⑩⑪⑫は別裁ちにする。



⑥ スカーフと身頃をつなげたパターン。



⑦ 衿の作図をする。

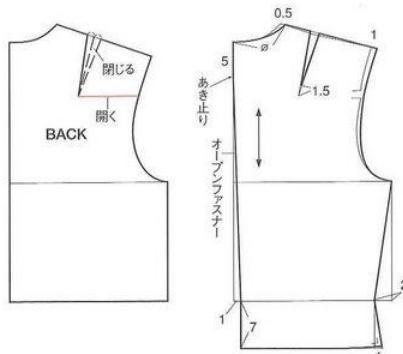


⑧ 下前は、⑨の身頃を使用する。ダーツは短くしてスカーフで隠れるようにする。

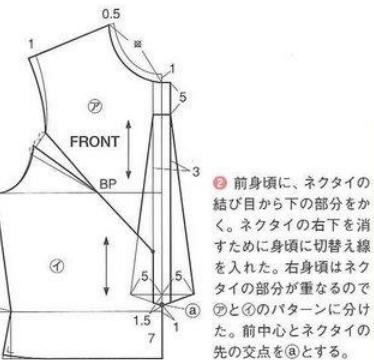
82ページ“消えるネクタイ”

どうなっているのだろう?

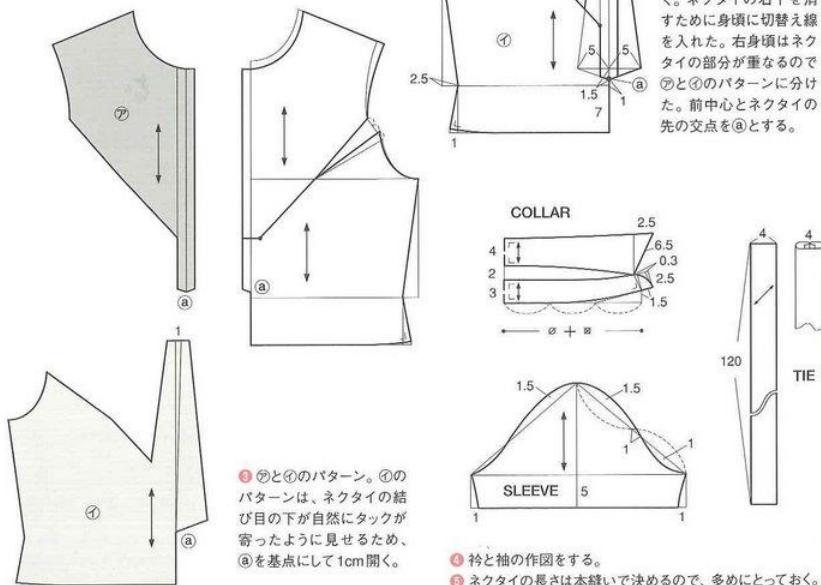
ネクタイの先が、シャツの中に消えている。



① 作図をする。後ろ中心をファスナーあきにする。



② 前身頃に、ネクタイの結び目から下の部分をかく。ネクタイの右下を消すために身頃に切替え線を入れた。右身頃はネクタイの部分が重なるので⑦と⑧のパターンに分けた。前中心とネクタイの先の交点を⑨とする。



③ ⑦と⑧のパターン。⑦のパターンは、ネクタイの結び目の下が自然にタックが寄ったように見せるため、⑧を基点にして1cm開く。

④ 衿と袖の作図をする。

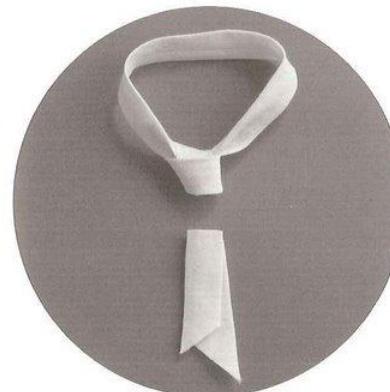
⑤ ネクタイの長さは本縫いで決めるので、多めにとっておく。



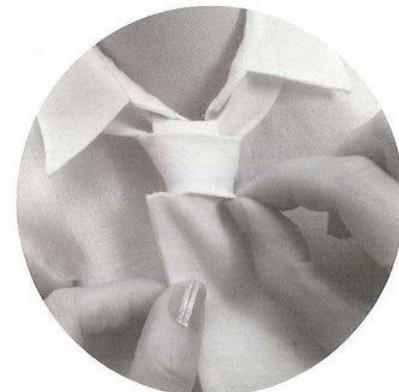
⑥ ネクタイを結ぶ。



⑦ 身頃をボディに着せて、ネクタイをつけてみる。好みの状態で結び目の位置を決めるが、頭の入る寸法をとる。



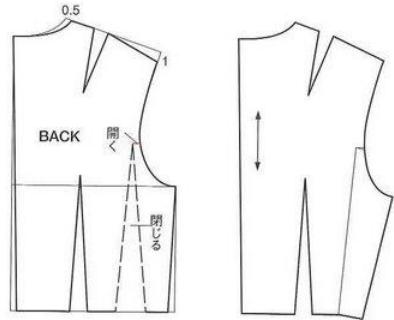
⑧ 結び目の位置が決まったら、結び目から下をカットする。カットした部分は不要になる。



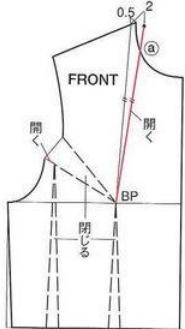
⑨ ネクタイの上の部分を衿にかけ、身頃⑦のネクタイを結び目の中に入れる。自然な感じになるようにネクタイをセットし、目立たないようにまとめる。

83ページ“消えるラベル”

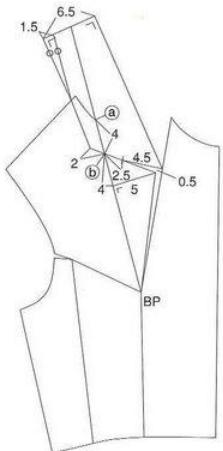
テーラードカラーのラベルは、
どこから始まっているのだろう。



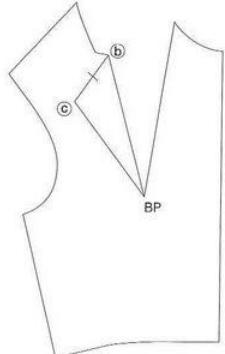
① 作図をする。後ろ身頃の脇側のダーツはたたむ。



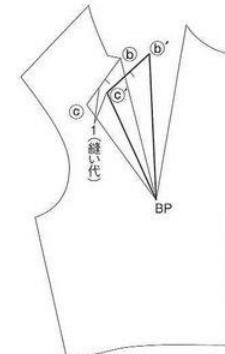
② 切開き線をかき、衿ぐりと
切開き線の交点を④とする。



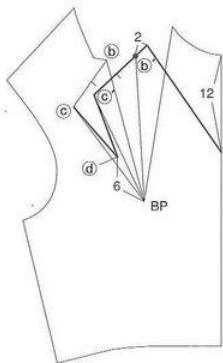
③ ダーツをたたみ、テーラードカラーの
作図をする。ラベルの始まる位置を⑤と
する。



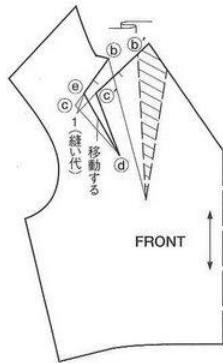
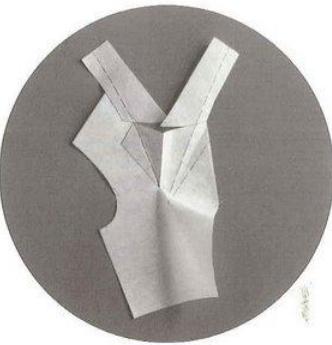
④ (b)とバストポイントを結んだ線を軸と
してラベルを反転して写す。ラベルの先
を⑥とする。



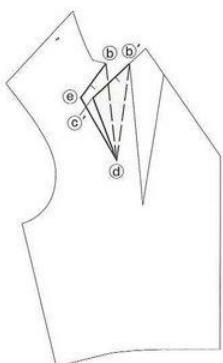
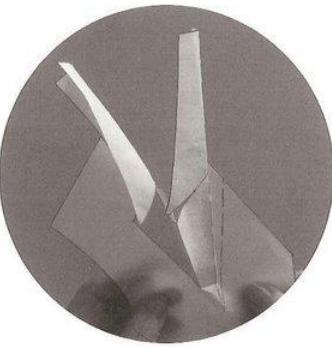
⑤ ラベルの縫い代をとる。バストポイン
トを基点とし、ラベルの角が1cm開く位
置まで移動し、⑥'～⑦'とする。



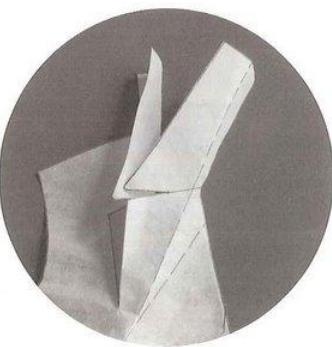
⑥ ③'～⑤'を2cm延長し、前中
心と結んで衿ぐりとする。バスト
ポイントから6cm上がった位置
を⑦とする。④'～⑥'、⑥'～⑦'を
結ぶ。



⑦ 身頃の切替え線を目立たせ
ないように縫い代分として1cm
残し、④'～⑥'を移動し、④'～⑦'
とする。



⑧ (b)'～(c)'～④'でできた三角形
を反転する。(b)'～④'の線上に
⑤'～④'を合わせる。(b)'～④'
と⑤'～④'の長さが違うので
⑤'～④'を結び直す。(b)'～④'～
⑦'～(c)'でできる菱形がラベル
に隠れる部分になる。

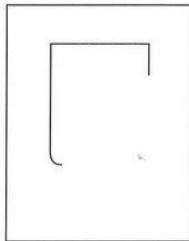
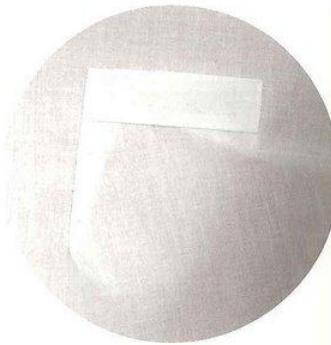


作図で仕組みがわかりづらい部分は、
ソーイングペーパーで作ってみると理解しやすい。

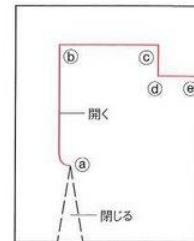
84ページ“消えるポケットA”

絵をかき始めて、途中でやめてしまったように
ポケットが消えている。
やはり“ダーツをたたんで開く”
のハイテクニックな応用。

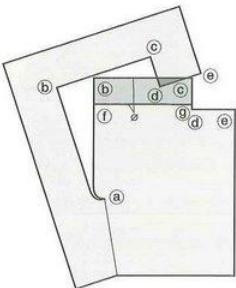
●ポケットA、B、Cは、
本来のポケットの機能は持たない。



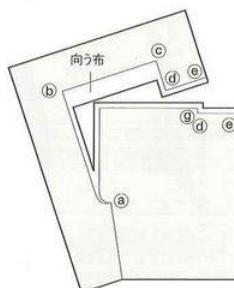
① ポケットのアウトラインをかぎ、角の
消したいところを消しゴムで消す。



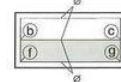
② ポケットを立体につける場合、ダーツ
を利用すると切替え線を消すことができる。
④をダーツ止りにして、切替え線④
～⑥の1本だけでアウトポケットを作っ
てみる。



③ ダーツをたたむと、土台とポケットが
重なってしまった。そこで、ポケット口を
切り替えることにした。縫い代分と、切
替え線のバランスを考えて寸法とした。



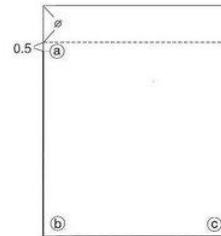
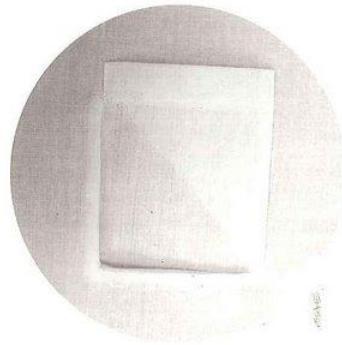
④ ポケット口を切り替えることで縫い代
分ができる。



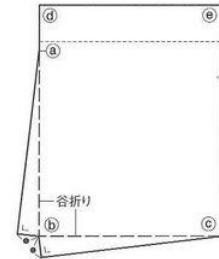
⑤ 切替えに縫い代をつける。土台のポ
ケット口周辺(⑥～⑥)の下の土台布は向
う布を兼ねるので、できるだけ多くとり
たい。

84ページ“消えるポケットB”

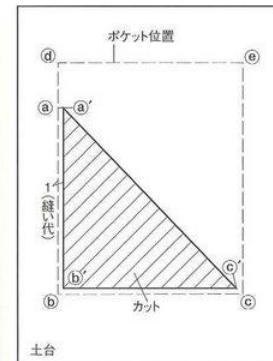
難破船が海に沈んでいくように……
アウトポケットの左の角が少し沈没し始めた。
これも“消える”的表現だ。



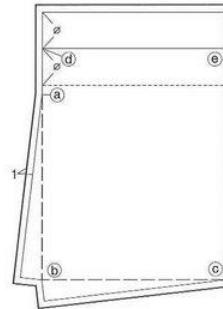
① アウトポケットの沈めたい位置を決める(④～
⑥～⑦)。



② ⑥を基点にして、沈める深さ●を決め、直角
に④、⑦と結ぶ。④～⑥～⑦は谷折りになる。



③ 土台布のポケットつけ位置④～⑥～⑦に縫い
代をつける。④'～⑥'～⑦'で囲まれた三角形は不
要な部分なのでカットする。

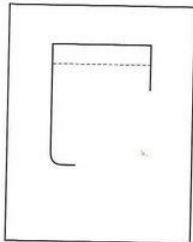
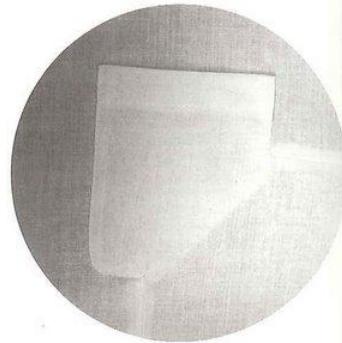


④ ポケットのパターンは、ポケット口の折返し分
を加え、縫い代をつける。

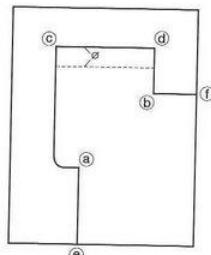
消えるポケットC

ポケットの角が消えている。

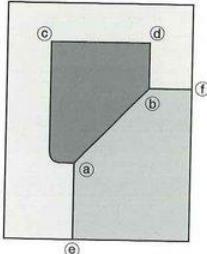
不思議だが実は、
ポケットの形をした切替え線……
というのが、マジックの種明し。



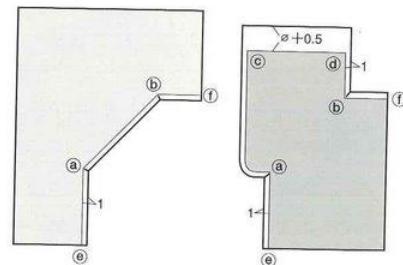
① ポケットのアウトラインをかき、角の
消したいところを消しゴムで消す。



② 消したところ④、⑤から、⑥～⑦、⑧
～⑨と切替え線を入れる。⑩、⑪を通っ
ていれば、⑫、⑬の位置はどこでもいい。



⑩～⑪～⑫～⑬で閉まれたところが
重なった、二つのパターンを作る。



⑭ 土台とポケットに縫い代をつける。

この本の使い方

女性のための服は体にフィットさせるだけでなく、より魅力的に見せるという大きな目的がある。そのために服のデザインは尽きることなく、時代を越えて、永遠の楽しみを私たちに与えてくれる。イメージをシルエットやディテールにするために、ここでご紹介したパターンを作る方法を役立ててほしい。この本の発想に学び、さらに自分なりの新しいやり方を見つけてもらえばもっとうれしい。この本に掲載した服のデザインの作図、パターンの操作はすべて文化式原型成人女子用Mサイズ(バスト83cm、ウエスト64cm、背丈38cm)をベースにしている。そして、立体のパターン操作には $\frac{1}{2}$ のボディを使った。このボディはすべての寸法が $\frac{1}{2}$ になっていて、表面積は $\frac{1}{4}$ 、体積は $\frac{1}{8}$ になる。 $\frac{1}{2}$ のボディを使うと、全体のバランスや雰囲気を簡単に把握することができて便利だ。またパターンの成立をわかりやすく紹介することを目的としたため、パターンには実際に仕立てるために必要な表記、また、布の使用量の掲載も省略してある。

作図の略称表記

| | |
|-----|-----------------------------|
| BP | Bust Point (バストポイント、乳頭点) |
| AH | Arm Hole (アームホール、袖ぐり) |
| FAH | Front Arm Hole (前アームホール) |
| BAH | Back Arm Hole (後ろアームホール) |
| B | Bust (バスト、胸囲) |
| W | Waist (ウエスト、腹囲) |
| H | Hip (ヒップ、腰囲) |
| BL | Bust Line (バストライン、胸囲線) |
| WL | Waist Line (ウエストライン、腹囲線) |
| HL | Hip Line (ヒップライン、腰囲線) |
| EL | Elbow Line (エルボーライン、肘線) |
| CF | Center Front (センターフロント、前中心) |
| CB | Center Back (センターバック、後ろ中心) |

作図中の表示記号

| | | |
|---------------------|--|--|
| 案内線 | | 目的の線を引くために案内となる線。 細い実線で表わす。 |
| 等分線 | | 一つの限られた長さの線が等しい長さに分けられていることを表わす線。細い破線で表わす。 |
| 出来上り線 | | パターンの出来上りの輪郭を表わす線。 太い実線または破線で表わす。 |
| わに裁つ線 | | わに裁つ位置を表わす線。 太い破線で表わす。 |
| ステッチ線 | | ステッチの位置を表わす線。 細い破線で表わす。 |
| ギャザー | | ギャザーを入れる位置を表わす。 細い実線で表わす。 |
| 見返し線 | | 見返しをつける位置と大きさを表わす線。 一点破線で表わす。 |
| 直角の印 | | 直角であることを表わす。 細い実線で表わす。 |
| 線の交差 | | 左右の線が交差することを表わす。 |
| 布目線 | | 矢印の方向に布の縫地を通ることを表わす。 太い実線で表わす。 |
| バイアス方向 | | 布のバイアス方向を表わす。 太い実線で表わす。 |
| 伸ばす印 | | 伸ばす位置を表わす。 |
| いせる印 | | いせる位置を表わす。 |
| 閉じて 切り開く印 | | パターンのダーツを閉じ、 その反動を開くことを表わす。 |
| 別々のパターンを 統合して裁つ印 | | 布を裁つときに パターンを続けることを表わす。 |